

目 次

【1年前期・通年】

社会的養護Ⅰ  
保育内容（健康）  
保育内容（人間関係）  
子どもと環境  
特別支援教育Ⅰ  
相談支援  
保育実習指導Ⅰ  
在宅保育  
保育・教育基礎研究Ⅲ  
音楽表現Ⅳ <通年>  
保育実習Ⅱ  
保育実習Ⅲ  
保育実習指導Ⅱ <通年>  
保育実習指導Ⅲ <通年>  
教育実習指導 <通年>  
教育実習Ⅱ  
教育インターンシップ  
<通年>  
レクリエーション実技  
レクリエーション実習  
<通年>

【1年後期】

子ども家庭支援論  
保育内容（環境）  
保育内容（言葉）  
保育内容（音楽表現）  
特別支援教育Ⅱ  
社会的養護Ⅱ  
保育・教職実践演習  
教育方法論  
医療保育  
保育・教育基礎研究Ⅳ  
絵画・造形  
ピアヘルピングの基礎

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
社会的養護 I		古野 愛子	2	前期	講義	必修	2
		担当形態	単独		ナンバリング	CE2202	
		担当教員	古野 愛子				
幼	科目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列	保育の本質・目的に関する科目					必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>					
1	要保護児童	社会的養護 I では、社会的養護を学ぶ上で必要となる基礎知識について学ぶ。内容としては、①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷、②社会的養護の基本、③社会的養護の制度と実施体系、④社会的養護の対象・形態・専門職、⑤社会的養護の現状と課題、について学習し、理解することを目的とする。					
2	家庭養護						
3	家庭的養護						
4	施設養護						
5	権利擁護						
<b>【到達目標】</b>		1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、関係する専門職等について理解する。					
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>							関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							
<b>【思考・判断・表現】</b>							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							
<b>【関心・意欲・態度】</b>							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							○
<b>【成績評価の方法】</b>							
成績指標	出席・授業態度		課題・テスト			合計	
評価割合 (%)	30%		70%			100	
<b>【成績評価の基準】</b>							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。						
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。						
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。						
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。						

**【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】**

課題は授業中に提示し、授業中に返却する。

**【教科書】**

『よりそい支える社会的養護Ⅰ』中山正雄監修、浦田雅夫編著、教育情報出版、2019.

**【参考書・参考資料等】**

『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2019』西郷泰之・宮島清編、中央法規、2018.  
『保育実習ガイドブック』山崎喜代子・古野愛子編著、ミネルヴァ書房、2017.

**【関連科目】**

社会福祉、社会的養護Ⅱ、保育実習（施設）

**【受講心得】**

授業をしっかりと聞き、ノートに学んだことをまとめ整理しておくこと。

**【備考】**

卒業必修科目、保育士資格の必修科目

【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 社会的養護について考えよう！		(1) 学習内容 ・社会的養護の概要を知り、社会で問題となっていることについて考える。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に目次を読んでどんな内容か把握しておくこと。(1時間) (3) 事後学習の内容 ・社会で問題となっていることをレポートにまとめる。(1時間)
2 第1章 子どもと家庭を取り巻く環境って、変わったのですか？		(1) 学習内容 ・子どもと家庭を取り巻く環境、子どもの貧困、児童虐待と社会的養護について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p14～20をよく読んでおくこと。(1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)
3 第2章 子どもの「権利擁護」と「社会的養護」って何ですか？		(1) 学習内容 ・社会的「養護」と子どもの権利「擁護」、親の「権利」について考える。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p21～28をよく読んでおくこと。(1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)
4 第3章 「要支援児童」や「要保護児童」って何ですか？		(1) 学習内容 ・「要保護児童対策地域協議会、児童相談所、一時保護所、児童家庭支援センターについて学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p29～38をよく読んでおくこと。(1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)
5 第4章 どのような施設があるのですか？ どうやって入所するのですか？		(1) 学習内容 ・措置について学ぶ。児童福祉施設に入所している子ども達の施設での生活について知る。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p39～66をよく読んでおくこと。(1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)

6	第5章 家庭と同様の養育環境の保障って どういうことですか？	(1) 学習内容 ・里親制度、里親支援専門相談員、特別養子縁組、ファミリーホームについて知る。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p67～78をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
7	第6章 社会的養護って、昔からあるのですか？	(1) 学習内容 ・明治期から高度成長期までの社会的養護の歴史について学ぶ。諸外国の社会的養護について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p79～90をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
8	第7章 社会的養護で大切にされていること って、何ですか？	(1) 学習内容 ・子どもの最善の利益、すべての子どもを社会全体で育むことについて学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p91～96をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
9	第8章 実際のケアで大切にされていること って、何ですか？	(1) 学習内容 ・家庭的養護と個別化、発達を保障する、自立を支える、回復をめざした支援、家族との連携、協働、パーマネンシーケア、ライフサイクルを見通した支援について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p97～112をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
10	第9章 養育の営みを支えるために、知 ておくべきことは何ですか？	(1) 学習内容 ・アタッチメントとホスピタリズム、ノーマライゼーション等の心理的支援や家族の支援について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p113～134をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
11	第10章 社会的養護のしくみって、どう なっているのですか？	(1) 学習内容 ・社会的養護全体の体系、養育形態、しくみ、施設や里親家庭での子ども達の生活費について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p135～144をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
12	第11章 社会的養護の場では、どんな人が 働いているのですか？	(1) 学習内容 ・保育士の役割、心理職の役割、だみりーソーシャルワーカーの役割、その他の専門職の役割について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p145～156をよく読んでおくこと。 (1時間) (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)

1 3	第12章 施設や里親家庭でも虐待はあるのですか？		<p>(1) 学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活のルール、施設や里親家庭で起こりやすい人権侵害、被措置児童等虐待をなくす取り組みについて学ぶ。</li> </ul> <p>(2) 事前学習の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前に教科書p157～164をよく読んでおくこと。(1時間)</li> </ul> <p>(3) 事後学習の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)</li> </ul>
1 4	第13章 これからの社会的養護の課題って、何ですか？		<p>(1) 学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の小規模化、子どもの自立支援とアフターケアの充実、家庭への支援の充実、地域子育て支援と児童虐待の予防、里親と共に子どもを支えることについて学ぶ。</li> </ul> <p>(2) 事前学習の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前に教科書p165～178をよく読んでおくこと。(1時間)</li> </ul> <p>(3) 事後学習の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)</li> </ul>
1 5	まとめ		<p>(1) 学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの授業で学んだことを総復習する。</li> </ul> <p>(2) 事前学習の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前に教科書のこれまで学んだところをよく読んでおくこと。(1時間)</li> </ul> <p>(3) 事後学習の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。(1時間)</li> </ul>
1 6	試験		試験範囲は事前に授業内で伝える。

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数	
保育内容（健康）	谷川 裕子	2	前期	演習	選択	1	
	担当形態	単独	ナンバリング		CE2301		
	担当教員	谷川 裕子					
幼	科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目				必修	
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				必修	
保	系 列	保育内容・方法に関する科目				必修	
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>					
1	保育内容	子どもの健康な心と体を育むための援助法を学ぶ。そのためには領域「健康」ねらいや内容を理解し、保育の場を想定した計画と実践、振り返りを行う中で教材活用を具体的に学ぶ。また身体活動を促す保育者として子どもの多様な動きを体験させ、引き出せるように共に楽しく動ける体を習得する。そのために情報機器（IPAD等）を使用し、自身または他者の動きを客観的評価する。様々な情報機器を活用することは学習情報を拡大するため、自身の活動意欲へと結びつくことまた向上することを理解する。					
2	健康						
3	発育発達						
4	指導法						
5	身体活動						
<b>【到達目標】</b>		1. 子どもの発育発達を見通した領域「健康」としての教材を活用できる。 2. 子どもの発育発達を見通した指導案が作成できる。 3. 模擬保育を通して自身の課題発見、課題解決ができる。					
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>						関連性	
<b>【知識・理解・技能】</b>							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						○	
<b>【思考・判断・表現】</b>							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						○	
<b>【関心・意欲・態度】</b>							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						○	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○	
<b>【成績評価の方法】</b>							
成績指標	指導法・実践力	課題提出	取り組む姿勢	合計			
評価割合（%）	50%	30%	20%	100			
<b>【成績評価の基準】</b>							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	理論に基づいた実践ができる。課題に真摯に向き合い課題解決ができています。						
A	理論に基づいた指導計画が作成できる。課題に真摯に向き合い向上しようとする姿勢がある。						
B	指導計画が作成できる。課題において思考することができる。						
C	指導計画を提出することができる。求められる課題において最低限の取り組みができる。						

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 提出された課題において、返却をもって授業時に行う。		
<b>【教科書】</b> 『すこやかな子どもの心と体を育む 運動遊び』井上勝子他 建帛社		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 『新訂 豊かな感性を育む表現遊び』井上勝子他 ぎょうせい 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他（フレーベル館）		
<b>【関連科目】</b> 「子どもと健康」		
<b>【受講心得】</b> 体を使っての授業のため、実習着での参加とする。また装飾品はつけてこない。体験を重視するため遅刻、欠席をしない。模擬保育が中心となるため身体活動を行う保育士としての身なりや立ち居振る舞いを心がける。		
<b>【備考】</b> 幼稚園教諭免許必修，保育士資格必修		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 オリエンテーション（身体活動の意義・ICT活用の意義）		本授業の到達目標の確認と、全体の授業内容を伝達する。保育内容「健康」のねらいと内容について解説を行う。事前学習：1年次に受講した「子どもと健康」の学習内容を振り返る。また指定された教科書を用意する（30分）事後学習：課題を行う（30分）
2 集団遊びの計画と実際		運動遊びの意義や効果を解説し、「運動遊びの指導計画」をグループごとに立てるとともに実践を行う。事前学習：幼児期運動指針を読んでおく（1時間）事後学習：実践における課題を見出す（30分）
3 集団遊びの実際と振り返り（ipad動画により自身・他者の動きを確認）		他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。集団遊びの意義を伝えるようになる。事前学習：幼児期運動指針を読んでおく（1時間）事後学習：次週の指導案課題（素材）の遊びの実践例を調べるまたは考えておく（1時間）
4 素材を使った遊びの計画と実際		素材遊びの特徴を生かした指導案作成を行う、またグループで実践する。事前学習：素材遊びを考えておく（30分）事後学習：素材遊びの実践例を授業で学習したことを記述しておく。（1時間）
5 素材を使った遊びの実際と振り返り		他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。素材遊びの発達に即した遊びを伝えるようになる。事前学習：授業の内容確認を行う（30分）事後学習：次週の指導案課題（小型遊具）の遊びの実践例を調べるまたは考えておく（1時間）
6 小型遊具を使った遊びの計画と実際		小型遊具を使った遊びの特徴を生かした指導案作成を行う、またグループで実践する。事前学習：授業の内容確認を行う（30分）事後学習：小型遊具での遊びを授業で学習したことを記述しておく。（1時間）

7	小型遊具を使った遊びの実際と振り返り		他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。小型遊具の特性を伝えるようになる。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：次週の指導案課題（大型遊具）の遊びの実践例を調べるまたは考えておく（1時間）
8	大型遊具を使った遊びの計画と実際		大型遊具の特徴を生かした指導案作成を行う、大型遊具の際の安全性について解説する。指導案についてはグループで実践する。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：大型遊具遊びの実践例を授業で学習したことを記述しておく。（1時間）
9	大型遊具を使った遊びの実際と振り返り		他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。大型遊具遊びの安全性について伝えられるようになる。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：次週の指導案課題（リズムダンス・体操）の情報収集しておく（30分）
10	リズムダンス・リズム体操の計画と実際		リズムダンス・リズム体操の指導を実践する。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：自己課題を見出す（30分）
11	リズムダンス・リズム体操の実際と振り返り		他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。リズムダンス・リズム体操の効果的な指導法を理解する。事後学習：他グループの作品を記述しておく（1時間）
12	運動会の計画と実際(情報機器で入手した園児の動画を分析)		特別活動における運動遊びの意義を解説する。また実際のこどもの発表を動画で観察する。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：授業で見聞きしたもの以外で特別活動について調べる（1時間）
13	運動会の実際と振り返り		運動会の企画・準備・実際を行い、運営の在り方を理解する。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：実際の反省を記述する（30分）
14	イメージから身体表現遊びの計画と実際		身体表現遊びから動きを引きだす指導法を学ぶ、幼児期の身体表現の意義を理解し、指導を計画し実践する。事後学習：指導法より動きの引き出し法について整理する（1時間）
15	イメージから身体表現遊びの実際と振り返り		他者グループから動きの効果的な引き出しを学ぶ。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：全授業の課題とまとめを提出する（1時間半）

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと人間関係		飯塚 恭一郎		1	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1214		
		担当教員	飯塚 恭一郎 (実務家)					
幼 保	科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目						必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	領域に関する専門的事項						
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目						必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	保育内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育内容5領域および「人間関係」領域について、幼稚園教育要領、保育所保育指針等に準拠して理解を深める。</li> <li>保育における「生活」と「遊び」の背景にある人とのかかわりと、子どもの発達や育ちの関係について学ぶ。</li> <li>大人との愛着関係や信頼関係をはじめ、子ども同士や集団との関係性など保育現場に見るさまざまな人とのかかわりのあり方を、事例をもとにして理解していく。</li> </ul>						
2	人間関係							
3	信頼関係							
4	個と集団							
5	相互理解							
<b>【授業のテーマ及び到達目標】</b>		<p>1. 保育内容5領域と人間関係領域について、ねらいや内容の意味するところや領域の視点から子どもの育ちを見ることが出来る。</p> <p>2. 子どもの生活と遊びをささえる周囲の人とのかかわりの重要性とそれによって保証される子どもの育ちの姿をイメージすることができる。</p> <p>3. 保育の中で、子どもが多種多様な人々とのかかわり、個人と集団の関係性を成立させる社会規範について学んでいくことの重要性を説明できる。</p>						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>								関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○						
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	定期試験	課題・演習	受講態度	合計				
評価割合 (%)	20%	40%	40%	100				
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	受講態度は良好で、講義内容を十分に理解しており、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が極めてよい。							
A	受講態度は良好で、講義内容を理解しており、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が十分である。							
B	受講態度はやや難があり、講義内容を総じて理解しているが、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が平均的である。							
C	受講態度は難があり、講義内容の概要は理解しているが、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が最低限で留まっている。							

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b>		
授業内の課題や演習については授業内で説明，講評をする。試験については模範解答を提示する。		
<b>【教科書】</b>		
毎回プリント資料教材を配布 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他 フレーベル館		
<b>【参考書・参考資料等】</b>		
『保育と人間関係』 矢野正 柏まり編著（嵯峨野書院）		
<b>【関連科目】</b>		
「保育内容（人間関係）」 「保育原理」 「保育内容総論」		
<b>【受講心得】</b>		
他の学生と講師に迷惑と不快を及ぼし授業進行を妨げる「私語」や「不遜な受講態度」は控えること。		
<b>【備考】</b>		
幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 授業ガイダンス／保育内容5領域とは		<b>【学習内容】</b> シラバスを元に授業の概要，目標，スケジュール，評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。併せて「保育内容5領域」の概要について学ぶ。 <b>【事前学習】</b> 事前にシラバスと『幼稚園教育要領解説』等に目を通しておく。（0.5時間） <b>【事後学習】</b> シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（1時間）
2 5領域と「人間関係」領域①		<b>【学習内容】</b> 小学校の『学習指導要領』などとの比較を通して，「保育内容」と「領域」の根本的な理念を学ぶ。 <b>【事前学習】</b> 『幼稚園教育要領解説』第2章を中心に，「保育内容のねらいと内容」の説明がある箇所目を通しておく。（0.5時間） <b>【事後学習】</b> 配布資料と『幼稚園教育要領』第2章を合わせて熟読し，「保育内容」と「領域」の根本的な理念の理解に努める。（1時間）
3 5領域と「人間関係」領域②		<b>【学習内容】</b> 保育内容5領域がしめす「ねらい」が表す「心情」「意欲」「態度」の意味を学ぶ。併せて「人間関係領域」にフォーカスしてその保育内容のねらいについて学ぶ。 <b>【事前学習】</b> 『幼稚園教育要領解説』第2章を中心に目を通し，各領域のねらいと「人間関係領域」について概観しておく。（0.5時間） <b>【事後学習】</b> 配布プリント資料を読み返し，保育内容5領域の「心情」「意欲」「態度」について理解を深める。（1時間）
4 生活と遊びを通して生まれるかかわり		<b>【学習内容】</b> 就学前教育の根幹をなす「生活」と「遊び」について，その目指すところ知り，その生活と遊びを成り立たせうる保育施設の環境を構成する「人間関係」について学ぶ。 <b>【事前学習】</b> 『幼稚園教育要領解説』第1章第1節と第2章「人間関係領域」を中心に目を通し，幼児期にふさわしい生活と遊びを通した総合的な指導の意味と人間環境域の内容について概観しておく。（0.5時間） <b>【事後学習】</b> 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し，環境を構成する「人間関係」の意味について理解を深める。（1時間）

5	大人とのかかわり－信頼関係構築①－	<p>【学習内容】 子どもと保育者との一対一の関係性について『幼稚園教育要領解説』の該当部分を専用シートを使って読解し、その内容を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)などに目を通し、子どもと保育者との一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 『幼稚園教育要領解説』と共に授業内で使った読解シートを読み返し、子どもと保育者との一対一の関係性について理解を深める。(1時間)</p>
6	大人とのかかわり－信頼関係構築②－	<p>【学習内容】 子どもと保育者の信頼関係構築のプロセスに内包する子どもの心情について映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)や前回授業の読解シートに目を通し、子どもと保育者との一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子どもと保育者との一対一の関係性における子どもの心情について理解を深める。(1時間)</p>
7	大人とのかかわり－信頼関係構築③－	<p>【学習内容】 子どもと保育者の信頼関係構築のプロセスに内包する保育者の心情と保育のねらいについて映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)あるいは、内容の取扱い(1)などに目を通し、子どもと保育者との一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子どもと保育者との一対一の関係性における保育者の思いと保育の配慮について理解を深める。(1時間)</p>
8	子ども同士のかかわり－個と個①－	<p>【学習内容】 園生活での子ども同士の一対一の関係性について『幼稚園教育要領解説』の該当部分を専用シートを使って読解し、その内容を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)、(5)などに目を通し、子ども同士の一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 『幼稚園教育要領解説』と共に授業内で使った読解シートを読み返し、子ども同士の一対一の関係性について理解を深める。(1時間)</p>
9	子ども同士のかかわり－個と個②－	<p>【学習内容】 園生活での子ども同士の一対一の関係のなかにある個々の子どもの心情・思いについて、映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)、(5)や前回授業の読解シートに目を通し、子ども同士の一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども同士の一対一の関係性のなかにある個々の子どもの心情・思いについて理解を深める。(1時間)</p>

1 0	子ども同士のかかわり－個と個③－	<p>【学習内容】 園生活での子ども同士の一対一の関係を見守る保育者の役割と配慮について、映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)、(5)あるいは、内容の取扱い(1)などに目を通し、子ども同士の一対一の関係を見守る保育者の役割と配慮についてあらためて概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども同士の一対一の関係を見守る保育者の役割と配慮について理解を深める。(1時間)</p>
1 1	集団の中でのかかわり－個と集団①－	<p>【学習内容】 園生活での子ども個人と仲間集団やクラス集団との関係性について、映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(7)、(8)などに目を通し、子ども個人と仲間集団やクラス集団との関係性についてあらためて概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども個人と仲間集団やクラス集団との関係性について理解を深める。(1時間)</p>
1 2	集団の中でのかかわり－個と集団②－	<p>【学習内容】 園生活での子ども個人と仲間集団やクラス集団を見守る保育者の役割や配慮について、映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(7)、(8)や内容の取扱い(2)などに目を通し、子ども個人と仲間集団やクラス集団を見守る保育者の役割や配慮についてあらためて概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども個人と仲間集団やクラス集団を見守る保育者の役割や配慮について理解を深める。(1時間)</p>
1 3	多様な人とのかかわり －気になる子どもなど－	<p>【学習内容】 いわゆる「気になる子ども」や異文化、多様な価値観を持った子どもとの関わりにつて、保育事例をもとに学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(7)などにあらかじめ目を通したり、様々な育ちの背景を持った友達と関わった自分自身の経験を振り返ったりしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、様々な育ちの背景を持った友達との関わりについて理解を深める。(1時間)</p>
1 4	地域とのかかわり－学びの連続性－	<p>【学習内容】 高齢者や小学校など、学びの連続性も視野に入れた地域との関わりについて学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(13)や内容の取扱い(6)などにあらかじめ目を通すなどして、地域との関わりについて概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、地域との関わりと「学びの連続性」概念について理解を深める。(1時間)</p>

1 5	授業の振り返りとまとめ		<p>【学習内容】 授業内容を振り返り，園生活における様々な人間関係について，一対一の関係を基本にして，人の心情理解が重要であることを再確認する。</p> <p>【事前学習】 授業内で配布されたプリント資料や『幼稚園教育要領解説』の人間関係領域箇所を再読しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 様々な人間関係における心情理解の重要性について，配布プリント資料等を整理，保存するなかで，再確認をしておく。（1時間）</p>
1 6	定期試験		

【実務家教員】

フリガナ	イイツカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
<p>【実務経験】</p> <p>幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。</p> <p>【実務経験を生かした授業科目】</p> <p>「保育者論」、「子どもと人間関係」、「保育・教育課程論」、「保育内容総論」、「保育・教職実践演習」</p>		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと環境	田尻 由美子	2	前期	演習	選択	1
	担当形態	単独	ナンバリング		CE2203	
	担当教員	田尻 由美子				

幼	科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目				必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	領域に関する専門的事項				
保	系列	保育の内容・方法の理解に関する科目				必修

<b>【キーワード】</b>	<b>【概要】</b>
1 環境	領域「環境」の指導に関連する子どもを取り巻く環境や子どもと環境との関わりについて、専門的事項における感性、知識・技能などを身につけることを目的としている。映像や視聴覚教材などを活用しながら具体的事例に基づき、領域環境のねらいや内容、内容の取扱いについて学びを深める。また、大学の近隣を散策したり実際に遊びを体験するなど、身近な自然や環境に触れあうグループワークを取り入れ、学生自身が多くの気づきや感性を表現できるように授業を展開していく。
2 自然環境	
3 感性	
4 物的環境	
5 保育内容	

<b>【到達目標】</b>
1. 子どもを取り巻く環境と発達について、関連性や環境との相互作用の意義、指導上の留意点を理解する
2. 幼児期の思考・科学的概念の発達や自然、数量、標識・文字、情報・施設との関わりなどを理解する
3. 幼稚園教育要領や保育所保育指針で示されている領域環境のねらいや内容を理解する

<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>	関連性
------------------------------	-----

<b>【知識・理解・技能】</b>	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	

<b>【思考・判断・表現】</b>	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○

<b>【関心・意欲・態度】</b>	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

<b>【成績評価の方法】</b>			
成績指標	受講態度・課題・レポート	定期試験	合計
評価割合 (%)	40	60	100

<b>【成績評価の基準】</b>						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b>	
定期試験結果：到達目標に達しなかった具体的項目と評価結果について、個別に開示し解説する。 授業中の小テスト・レポート等：すべてについて、適宜、授業中に返却し解説する。	
<b>【教科書】</b>	
『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館	
<b>【参考書・参考資料等】</b>	
『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 その他の参考図書、絵本等は授業中に随時紹介する。資料は適宜配布する。	
<b>【関連科目】</b>	
「保育内容総論」「保育内容（環境）」「子ども理解の方法」	
<b>【受講心得】</b>	
学習内容を実習や保育現場で応用し、実践できるよう学んでください。毎回、授業内容や配布資料を整理しノートにまとめるなどして、日常の学習を大切にしてください。幼稚園教育要領、保育所保育指針を熟読してください。	
<b>【備考】</b>	
幼稚園教諭免許必修、保育士資格必修	
<b>【学習項目】</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 オリエンテーション、領域「環境」とは	学習内容 授業概要、受講の心得、評価などについてシラバスを基に確認する 領域の考え方、領域環境のねらい、保育者の役割などについて理解する 事前学習 シラバスを読んでおく 保育所保育指針の3歳以上児の領域環境のねらいについて読んでおく（1時間） 事後学習 領域環境のねらいについて概要と留意点、保育者の役割を簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
2 子どもを取り巻く環境①（人的・物的環境）	学習内容 子どもを取り巻く環境について考えを發表し共有することで概要を捉える それぞれの環境の幼児にとっての意義や留意点を考える 保育所保育指針の内容①～⑩の概要を理解する 事前学習 子どもを取り巻く環境について考えておく 保育所保育指針の内容①～⑩を読んでおく（1時間） 事後学習 保育環境の実際について、実習経験を振り返ってまとめておく簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
3 子どもを取り巻く環境②（社会環境・安全等）	学習内容 子どもを取り巻く環境について、特に保育環境について実習体験を基に学生自身が考え、發表してクラスで共有する 保育環境の実際と留意点を理解する 事前学習 実習体験を踏まえ保育環境の留意点について考えておく（1時間） 事後学習 保育環境の実際と留意点について学習内容を整理し、簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
4 子どもと環境①（能動性・好奇心・探求心等）	学習内容 幼児期に育てたい力について、物に関わる保育の意義と留意点を考える 保育所保育指針内容②⑧、内容の取扱い①を理解する 事前学習 保育所保育指針内容②⑧、内容の取扱い①を読んでおく（1時間） 事後学習 学習内容を整理し、物と関わる保育の意義と留意点を簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
5 子どもと環境②（感性・科学的思考・創造性）	学習内容 幼児期に育てたい力について、自然と関わる保育の意義と留意点を考える 保育所保育指針内容①③④、内容の取扱い②を理解する 事前学習 保育所保育指針内容①③④、内容の取扱い②を読んでおく（0.5時間） 事後学習 学習内容を整理し、自然と関わる保育の意義と留意点を簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
6 乳幼児期の生物・自然との関わり①	学習内容 生き物や自然と関わる保育について理解する 保育所保育指針の1歳以上3歳未満児の領域環境について理解する 事前学習 保育所保育指針1歳以上3歳未満児の領域環境を読んでおく（1時間） 事後学習 学習内容を整理し、生き物や自然と関わる保育について簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）

7	乳幼児期の生物・自然との関わり②	<p>学習内容 地域の環境（公園）を利用した保育実践について、実際に学外において体験しながら学びを深める</p> <p>事前学習 自然との関わりを中心にした遊びを考えておく（1時間）</p> <p>事後学習 学習内容を振り返り、保育実践を確実に身につけるよう復習しておく（1時間）</p>
8	乳幼児期の認知的発達の特徴（命の概念）	<p>学習内容 認知的発達の特徴を踏まえ、かつ近年の認知心理学の研究成果を基に命の概念や数量の概念形成について理解する 保育所保育指針内容⑤、内容の取扱い③を中心に留意点などを理解する</p> <p>事前学習 保育所保育指針内容⑤、内容の取扱い③を読んでおく（1時間）</p> <p>事後学習 資料の整理や学習内容の整理をし、命の概念形成について簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）</p>
9	乳幼児期の伝統文化との関わり（現代的課題）	<p>学習内容 現代的課題として、国際化に伴う異文化理解について領域環境の視点から考える 保育所保育指針内容⑥、内容の取扱い④などを理解する</p> <p>事前学習 保育所保育指針内容⑥、内容の取扱い④を読んでおく（1時間）</p> <p>事後学習 学習内容を整理し、伝統文化に関わる保育について簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）</p>
10	乳幼児期の物との関わり（環境教育）	<p>学習内容 物を大切に扱うことを通して、現代的課題としての持続可能な社会のための教育（ESD）を領域環境の視点から考える 保育所保育指針内容⑦を理解する</p> <p>事前学習 保育所保育指針内容⑦を読んで理解しておく 地球環境について問題点を整理しておく（0.5時間）</p> <p>事後学習 学習内容を整理し、物を大切にする保育の意義と留意点について簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）</p>
11	乳幼児期の数量・図形との関わり	<p>学習内容 数量・図形などにかかわる保育で育つ力について理解する 保育所保育指針内容⑨、内容の取扱い⑤について理解する</p> <p>事前学習 保育所保育指針内容⑨、内容の取扱い⑤を読んでおく（1時間）</p> <p>事後学習 学習内容を整理し、数量・図形との関わりについて簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）</p>
12	乳幼児期の標識・文字との関わり	<p>学習内容 標識と文字にかかわる保育について理解する 保育所保育指針内容⑩、内容の取扱い⑤について理解する</p> <p>事前学習 保育所保育指針内容⑩、内容の取扱い⑤を読んでおく（0.5時間）</p> <p>事後学習 学習内容を整理し、標識・文字との関わりについて簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）</p>
13	乳幼児期の情報・地域の施設との関わり	<p>学習内容 地域の施設・環境にかかわる保育について理解する 保育所保育指針内容⑪を理解し園外保育の留意点などを学び指導案を立案する</p> <p>事前学習 保育所保育指針内容⑪を読んでおく（0.5時間）</p> <p>事後学習 地域の環境（公園）に関わる保育について、指導案を完成させる（1時間）</p>
14	乳幼児期の地域の施設との関わり（園外保育）	<p>学習内容 地域の施設（公園等）を利用した園外保育の模擬保育を実践し、振り返りを行って指導力を確実に身につける</p> <p>事前学習 地域の環境（公園）に関わる保育について、模擬保育の準備をしておく（0.5時間）</p> <p>事後学習 模擬保育の実践結果と改善点をレポートにまとめ、完成させて提出準備をする（1時間）</p>
15	振り返りとまとめ	<p>学習内容 1回～14回の学習内容や保育所保育指針の内容①～⑪、内容の取扱い①～⑤を振り返り、補足やまとめを行う</p> <p>事前学習 14回までの授業時に配布したすべての資料を整理し、ノートをまとめようとして持参する（1時間）</p> <p>事後学習 授業の振り返りとノートの整理を行い定期試験の準備を行う（1時間）</p>
16	定期試験	

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
特別支援教育 I			2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング	CE2204	
		担当教員					
幼	科目	教育の基礎的理解に関する科目					必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
保	系列	保育の内容・方法に関する科目					必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>					
1	障害児保育	近年、保育所・幼稚園では、障害認定までには至らないが、発達に遅れや偏りがある子どもが増加しているといわれている。そのような状況で障害のある子どもの保育・教育に関する知識はさらに重要になってきている。また、障害や出生後の養育環境によって、生活のしづらさや困りごとを抱える子どもへの対応や、その課題への解決方法を具体的に計画・提供することが必要となってくる。本授業では、それらの子どもに対応していくために必要な知識や支援方法を理解していく。					
2	知的障害						
3	発達障害						
4	言語障害						
5	合理的配慮						
<b>【到達目標】</b>		1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する 2. 特別の支援を必要とする幼児、児童および生徒の教育課程及び支援の方法を理解する 3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する					
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>		関連性					
<b>【知識・理解・技能】</b>							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○					
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○					
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○					
<b>【思考・判断・表現】</b>							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○					
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○					
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○					
<b>【関心・意欲・態度】</b>							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○					
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○					
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○					
<b>【成績評価の方法】</b>							
成績指標	定期試験		提出物および受講態度			合計	
評価割合 (%)	60		40			100	
<b>【成績評価の基準】</b>							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。						
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。						
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。						
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。						
<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b>							
課題、レポートについては、講義の中での発表などについては必要に応じて適宜活用する。							

<b>【教科書】</b>		
『受けとめる保育』 牧野桂一 エイデル研究所 『特別支援学校・学習指導要領』 文部科学省		
<b>【参考書・参考資料等】</b>		
『特別支援学校学習指導要領・解説書』 文部科学省 『ことばを育てる保育支援』 牧野桂一・山田真理子 『子らのいのちに照らされて』 牧野桂一 樹心社		
<b>【関連科目】</b>		
「特別支援教育Ⅱ」「子どもの心理学」「子ども家庭福祉」		
<b>【受講心得】</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間内に頭と手を動かして、課題・グループワークに取り組んでください。課題内容やグループワークの活動状況も成績評価の対象とします。</li> <li>・事前学習、事後学習については、別にA5版のノートを作って、記録するようにしてください。</li> </ul>		
<b>【備考】</b>		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 特別支援教育に関する制度の理念や仕組み		<学習内容>初回の授業であるため、15回の講義の概要とともに特別支援教育の基本的理念を中心にその歴史や制度、仕組みについて説明する。<事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（1時間）<事後学習>特別支援教育の基本に関する歴史や制度の概要について復習する。（1時間）
2 特別の支援を必要とする子どもの学習の過程・教育の課程（通級による指導、自立活動）		<学習内容>特別支援教育を必要とする子どもの特性を基本にしなが、その特性に応じた学習の形態と学習過程・教育課程について特別支援学校、普通学校の内容を学ぶ。特別支援教育に関して基本になる法令と専門語について説明する。<事前学習>学習指導要領全般について目を通す。（1時間）<事後学習>学習した学習指導要領の内容、基本的な法令、専門用語をまとめ、理解を深めておく。（1時間）
3 視覚障害児の心理的特性・学習上・生活上の困難・支援の方法		<学習内容>①視覚障害の定義について学ぶ。②視覚障害児の発達特性と心理的特性について周りの人たちとの関わりを通して学ぶ。※講義の間に二人組になり盲人体験をする。③視覚障害教育の特質である盲教育と弱視教育について学ぶ。<事前学習>指導要領の視覚障害について熟読する。（1時間）<事後学習>視覚障害にかかわる学習指導要領の内容をまとめ、理解を深めておく。（1時間）※身近な人と盲人の疑似体験をする。
4 聴覚障害児の心理的特性・学習上・生活上の困難・支援の方法		<学習内容>①聴覚障害の定義②聴覚障害児の発達特性と心理的特性③視覚障害教育の特質について学ぶ。<事前学習>指導要領の聴覚障害について熟読する。（1時間）<事後学習>学習した学習指導要領の内容をまとめ、理解を深めておく。（1時間）※身近な人と聴覚障害の疑似体験をする。
5 知的障害児の心理的特性・学習上・生活上の困難・支援の方法		<学習内容>①知的障害の定義について学ぶ。②知的障害児の発達特性と心理的特性について、周りの人たちとの関わりを通して学ぶ。③知的障害教育の特性について学ぶ。<事前学習>指導要領の知的障害について熟読する。（1時間）<事後学習>学習した学習指導要領の内容をまとめ、理解を深めておく。（1時間）
6 肢体不自由児の心理的特性・学習上・生活上の困難・支援の方法		<学習内容>①肢体不自由の定義について学ぶ。②肢体不自由児の発達特性と心理的特性について学ぶ。③肢体不自由教育の特性について学ぶ。<事前学習>指導要領の肢体不自由について熟読する。（1時間）<事後学習>学習した肢体不自由の子どもの教育の内容をまとめ、理解を深めておく。（1時間）
7 病弱児の心理的特性・学習上・生活上の困難・支援の方法		<学習内容>①病弱の定義について学ぶ。②病弱児の発達特性と心理的特性について学ぶ。③病弱児教育の特性について学ぶ。<事前学習>指導要領の病弱について熟読する。（1時間）<事後学習>学習した病弱児の教育の内容をまとめ、理解を深めておく。（1時間）

8	発達障害児の心理的特性・学習上・生活上の困難・支援の方法	<p>&lt;学習内容&gt;①発達障害の定義について学ぶ。②発達障害児の発達特性と心理的特性について学ぶ。③発達障害児の教育の特性、特に「自閉スペクトラム症」「注意欠如多動症」「学習障害」について学ぶ。④発達障害児の指導方法について学ぶ&lt;事前学習&gt;発達障害についての情報を収集する。(1時間) &lt;事後学習&gt;学習した発達障害の子どもの教育の内容をまとめ、理解を深めておく。(1時間)</p>
9	障害はないが特別な教育的ニーズのある子ども(母国語や貧困の問題)	<p>&lt;学習内容&gt;①障害はないが特別な教育的ニーズのある子どもの現状について学ぶ。②帰国子女、外国籍の子どもの現状と課題③貧困の中にいる子どもも現状と課題④児童虐待の現状と課題、対処の方法について学ぶ。&lt;事前学習&gt;子どもの貧困と虐待についての情報を収集する。(1時間) &lt;事後学習&gt;学習したさまざまな課題のある子どもへの現状と課題をまとめ、理解を深めておく。(1時間)</p>
10	障害はないが特別な教育的ニーズのある子ども(気になる子ども)	<p>&lt;学習内容&gt;①気になる子どもの現状について学ぶ。②気になる子どもの発達特性と心理的特性について学ぶ。③気になる子どもの教育の特性、特に「ことばの問題」「行動の問題」「日常生活の問題」「人間関係の問題」について学ぶ。④気になる子どもへの配慮と指導方法について学ぶ&lt;事前学習&gt;気になる子どもの情報を収集する。(1時間) &lt;事後学習&gt;学習した気になる子どもの教育の内容をまとめ、理解を深めておく。(1時間)</p>
11	発達のアセスメントと支援(個別教育・指導計画)	<p>&lt;学習内容&gt;一人一人の子どもの実態を把握するためのアセスメントのあり方。②アセスメントの中核を担う発達検査や心理検査の概要③知的障害や発達障害を理解するためのアセスメントの活用④一人一人の子どもの発達の現実に基づいた個別の保育計画の立案 アセスメントに対する保育の評価のあり方&lt;事前学習&gt;発達検査や心理検査の情報収集(1時間)&lt;事後学習&gt;講義で使ったチェックリストを身近な気になる子どものモデルを使って使ってみる。(1時間)</p>
12	インクルーシブ教育システムと教育的配慮	<p>&lt;学習内容&gt;インクルーシブ教育の概要。②インクルーシブ教育を支える障害者の人権問題③インクルーシブ教育に関わる啓発活動④障害のある子どもへの合理的配慮を巡る問題&lt;事前学習&gt;障害者の人権条約を読んでおく。&lt;事後学習&gt;障害者への合理的配慮を整理する(1時間)</p>
13	家庭支援と相談体制	<p>&lt;学習内容&gt;障害のある子どもを支える家庭支援と相談体制の整備②障害のある子どもを支える家庭での支援のあり方と各種の支援制度の活用③障害のある子どもを支えるための相談のあり方と各種の障害児童支援機関との連携④障&lt;事前学習&gt;保護者支援に関する情報を収集する。&lt;事後学習&gt;自分のする地域の障害者支援のための関係機関を整理する(1時間)</p>
14	小学校との連携と一人一人の子どもの進路	<p>&lt;学習内容&gt;小学校における障害のある子どもの受け入れの現状と課題②幼稚園・保育園・こども園と小学校の連携で必要なもの③就学の基準と適正な就学指導④連携に必要な書類の整備と活用。&lt;事前学習&gt;地域にある小学校における障害のある子どもの受け入れの現状について調査しておく。&lt;事後学習&gt;自分の澄んでいる地域の小学校の特別支援教育について調査するしそれを整理する(1時間)</p>
15	障害児教育の課題	<p>&lt;学習内容&gt;就学前の特別支援教育と就学後の特別支援教育の違いに見る特別支援教育の課題②集団保育の中における特別支援教育の課題③保育現場における特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室、訪問教育の補いに対する課題④医療的ケア児への対応に対する課題&lt;事前学習&gt;保育現場における障害のある子どもや気になる子どもに対する課題を集めておく。&lt;事後学習&gt;この講義で学んだことの啓発に努める(これからずっと)</p>
16	定期試験	

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
相談支援		是松 いづみ		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE2308		
		担当教員	是松 いづみ					
幼	科目	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目						必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系列	保育の内容・方法に関する科目						必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	相談支援	この授業では、現代社会における子育てをしている家庭が置かれている現状と課題について把握し、子どもや保護者、地域で子育てをしている家庭に多い相談内容を知り、実際の事例やグループディスカッションを通して、支援方法について考えを深める。また、相談支援を行う専門職として必要な専門知識及び専門技術を学び、信頼される専門職となるための基本的態度、倫理観を身につけることを目的とする。						
2	信頼関係							
3	支援計画							
4	連携・協働							
5	社会資源							
<b>【到達目標】</b>		1. 現代社会における子育てをしている家庭が置かれている現状と課題について把握する。 2. 相談支援を行う専門職として必要な専門知識及び専門技術、基本的態度、倫理観を身につける。 3. 子育て支援制度や実施体系について学び、連携する専門機関や専門職、社会資源について学ぶ。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>								関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	出席・授業態度		課題レポート		試験		合計	
評価割合 (%)	20		30		50		100	
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E		F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績		受験資格なし(出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0		0	
評語	評価の基準							
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。							
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。							
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。							
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。							

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 課題は授業中に提示し、授業中に返却する。		
<b>【教科書】</b> 『演習 保育相談支援』小林 育子著 萌文書林		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 『保育相談支援』柏女霊峰 橋本真紀編著 ミネルヴァ書房 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『保育相談支援』大嶋恭二 金子恵美編著 建帛社 『聴く・伝える・共感する技術』大谷佳子 翔泳社 『これでわかる！子ども・子育て支援新制度』保育研究所編 ひとなる書房 『基本保育シリーズ 保育相談支援 西村重稀他編著 中央法規 『子ども理解と保育実践 子どもを知る・自分を知る』塚本美知子他編著 萌文書林		
<b>【関連科目】</b> 「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護Ⅰ」、「社会的養護Ⅱ」、「保育実習指導」		
<b>【受講心得】</b> 保育現場での保護者支援の内容と技術について、主体的に授業に参加し理解できるように学びましょう。		
<b>【備考】</b> 幼稚園教諭課程必修、保育士資格必修		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1		<p>オリエンテーション 本科目の位置づけ 学習の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援の意義</li> <li>・相談支援の対象</li> <li>・家庭の変容と相談支援</li> <li>・相談支援の経過</li> </ul> <p>(1) 学習内容 ・相談支援で学ぶ内容を把握し、現代社会において子育てをしている家庭に多い相談内容について知る。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p12～32をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。</p>
2		<p>相談支援の原則について学ぶ（1） § 1 子どもの最善の利益 § 2 保護者の養育力の向上</p> <p>(1) 学習内容 ・子どもの人権を尊重し、何よりも子どもの育ちにとって最善の利益になるように配慮していくことの大切さを学ぶ。 ・親として自信をもって子育てしていける援助の必要性を知る。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p34～41をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。</p>
3		<p>相談支援の原則について学ぶ（2） § 3 守秘義務 § 4 受容的関わり</p> <p>(1) 学習内容 ・相談支援を行うにあたり、守秘義務の大切さと受容的かわりの必要性を学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p42～50をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。</p>
4		<p>相談支援の進め方について学ぶ（1） § 1 より効果的な保育相談をするために</p> <p>(1) 学習内容 ・より効果的な保育相談をするために、保護者の生活・行動特性を理解し、信頼関係の築き方を学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p52～59をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。</p>

5	相談支援の進め方について学ぶ(2) § 2 保育相談支援の実践	(1) 学習内容 ・専門職として基本的な主訴の確認, 問題の経過とこれまでの対応の経過, アセスメント, インターベーション, 関連機関との連携を学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p60~69をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
6	相談支援の技術を学ぶ(1) § 1 保育相談支援の技術と留意点	(1) 学習内容 ・相談支援の基本として, 相談者の対象の課題, 面接の技術(雰囲気, 傾聴, 単純な応答, 繰り返し, 感情への応答, 沈黙への対し方・ラポール樹立)について具体的に学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p72~79をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
7	相談支援の技術を学ぶ(2) § 2 電話相談の技術と留意点	(1) 学習内容 ・相談支援の基本として, 電話相談の意義, 電話相談の技術(切迫度を理解, 匿名性への配慮, 傾聴の技法の重視, 時間の制限)について具体的に学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p80~84をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
8	相談支援の技術を磨くために § 1 記録と評価 § 2 研修・研究	(1) 学習内容 ・記録の必要性を学び, 実際に記録をとって書き方を習得するとともにその評価について学ぶ。 ・研修の種類や内容とその課題について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p86~96をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
9	相談支援の事例(1) § 1 保育所の相談支援の事例から学ぶ CASE 1~5	(1) 学習内容 ・栄養, 食事, 生活習慣の相談についてグループワークで学ぶ。 ・発達の遅れ, 気になる行動の相談についてグループワークで学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p99~112をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
10	相談支援の事例(2) § 1 保育所の相談支援の事例から学ぶ CASE 6~11	(1) 学習内容 ・子どもの遊び, おけいごとの相談についてグループワークで学ぶ。 ・育児不安, 虐待, 家族関係の相談についてグループワークで学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p113~128をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。

1 1	<p>相談支援の事例(3)  § 1 保育所の相談支援の事例から学ぶ  CASE 1 2～1 4</p>	<p>(1) 学習内容  ・外国人の保護者からの相談についてグループワークで学ぶ。  (2) 事前学習の内容  ・講義前に教科書p129～139をよく読んでおくこと。  (3) 事後学習の内容  ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。</p>
1 2	<p>相談支援の事例(4)  § 1 保育所以外の児童福祉施設の相談支援の事例から学ぶ  CASE 1 5～2 0</p>	<p>(1) 学習内容  ・乳児院, 児童養護施設, 児童発達支援センターの相談事例についてグループワークで学ぶ。  (2) 事前学習の内容  ・講義前に教科書p140～155をよく読んでおくこと。  (3) 事後学習の内容  ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。</p>
1 3	<p>聴く・伝える・共感する技術を身に付けるために(1)  § 1 相談援助の専門職としてコミュニケーション力  § 2 聴き上手になる技術</p>	<p>(1) 学習内容  ・相談支援の専門職としてのコミュニケーション力を高める。  ・聴き上手になる技術を学び体得する。  (2) 事前学習の内容  ・講義前に学習プリント1 3をよく読んでおくこと。  (3) 事後学習の内容  ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。</p>
1 4	<p>聴く・伝える・共感する技術を身に付けるために(2)  § 3 伝え上手になる技術  § 4 共感上手になる技術</p>	<p>(1) 学習内容  ・相談支援の専門職としての伝え上手になる技術を高める。  ・共感上手になる技術を学び, 体得する。  (2) 事前学習の内容  ・講義前に学習プリント1 4をよく読んでおくこと。  (3) 事後学習の内容  ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。</p>
1 5	<p>学んできた相談支援について, まとめる。  ・相談支援の意義  ・相談支援の原則  ・相談支援の進め方  ・相談支援の技術  ・相談支援の事例</p>	<p>(1) 学習内容  ・相談支援を行うにあたり, 大切な点, 気を付けるべき点についてプリントに記入し, まとめる。  (2) 事前学習の内容  ・講義前に今まで学習してきたプリントをよく読んでおくこと。  (3) 事後学習の内容  ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。</p>
1 6	試験	学習プリントをよく読んで, 復習しておくこと。

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習指導 I		飯塚恭一郎		1・2	通年	演習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング		CE1219		
		担当教員	保育所担当：飯塚恭一郎 豊辻晴香 砥上あゆみ 畠中智恵 施設担当：菅原亜紀 古野愛子					
幼	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系列	保育実習						必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	保育所	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育実習の事前指導として学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行う。</li> <li>実習生としての心得に始まり、保育所実習および施設実習に関わる観察法、記録や指導計画等の記述法、遊びや指導の技術等、実習に求められる基本的な知識と技能を学ぶ。</li> <li>実習終了後に実習の振り返りと総括、自己評価を行い、自らの今後の課題を明らかにして学習目標を持つ。</li> </ul>						
2	施設							
3	保育実習							
4	記録							
5	指導計画							
<b>【到達目標】</b>		1. 保育実習の意義、目的、内容を理解し、自らの実習の課題を明確にできる。 2. 子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。 3. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解できる。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>								関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	演習への取り組みの姿勢・受講態度			課題・提出物等			合計	
評価割合 (%)	60%			40%			100	
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	演習の目的を理解した上で課題に真摯に取り組む姿があり、課題・提出物の内容が十分である。							
A	演習の目的を理解して課題に取り組む姿があり、課題・提出物の内容がおおむね十分である。							
B	演習課題に意欲的に取り組む姿があり、課題・提出物の内容が本人の力量相応である。							
C	演習課題に取り組む姿勢はあるが、課題・提出物が最低限の内容に留まっている。							

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 各演習の結果と内容に対して、口頭あるいはプリント資料によって講評を行う。		
<b>【教科書】</b> 純真短大こども学科『実習のてびき』および各回の授業内容に沿った資料を別途プリントで配布する。		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
<b>【関連科目】</b> 「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅱ」および「保育実習指導Ⅲ」		
<b>【受講心得】</b> 遅刻、欠席の回数や受講態度、提出物の遅れなどが重なった場合は、実習中止の判断をする場合がある。		
<b>【備考】</b> 保育士課程必修 なお、状況により学習進行や順番が変わる場合がある。		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 保育所実習の意義・目的・概要	保育所 担当 教員	<b>【学習内容】</b> 保育所実習の概要とその意義、目的について学ぶ。 <b>【事前学習】</b> あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通しておく。（0.5時間） <b>【事後学習】</b> 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。（0.5時間）
2 実習の内容と課題、留意事項について	保育所 担当 教員	<b>【学習内容】</b> 保育所実習の具体的な内容と留意すべきことについて学ぶ。 <b>【事前学習】</b> あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通しておく。（0.5時間） <b>【事後学習】</b> 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。（0.5時間）
3 乳幼児の発達の理解	保育所 担当 教員	<b>【学習内容】</b> 視聴覚教材や保育課程等を参照し乳幼児の発達を基盤とした保育所の生活について学ぶ。 <b>【事前学習】</b> 他授業の乳幼児の発達に関わる資料等を参照するなどして発達の概要を押さえておく。（0.5時間） <b>【事後学習】</b> 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て乳幼児の発達についての理解を深める。（0.5時間）
4 子どもの人権と最善の利益の考慮について	保育所 担当 教員	<b>【学習内容】</b> 「乳幼児倫理綱領」「子どもの権利条約」等子どもの人権尊重と保育の仕事について学ぶ。 <b>【事前学習】</b> あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や「子どもの権利」に関わる資料目を通しておく。（0.5時間） <b>【事後学習】</b> 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て子どもの人権を尊重する保育者の役割と仕事について学びを深める。（0.5時間）
5 実習生としての心構え	保育所 担当 教員	<b>【学習内容】</b> 実習生あるいは社会人として子どもの前に立つことを前提にした心構えについて学ぶ。 <b>【事前学習】</b> あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や「子どもの権利」に関わる資料目を通しておく。（0.5時間） <b>【事後学習】</b> 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て日々の自分の立ち居振る舞い等を見直す。（0.5時間）

6	観察実習・参加実習・指導実習について	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 「観察実習」「参加実習」といった実習の段階があることを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や「子どもの権利」に関わる資料に目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て各実習の段階の違いとそこでの学びの違いについて理解を深める。(0.5時間)</p>
7	実習の課題の明確化	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 日々の実習において、その日の「学びの課題」を設定し実習に取り組むことの重要性を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通し、実習日誌の記述部分などを確認しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 実習の段階にも関連させて、10日間の実習日程における学びの課題と目的について理解を深める。(0.5時間)</p>
8	実習における観察、記録および評価について	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 実習内容や観察内容の「記録」の必要性とツールとしての「日誌」の役割と記述方法を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の日誌記述のサンプルページを中心に目を通し、記録と日誌についてイメージをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「実習のてびき」以外の記録と実習日誌に関する資料やテキストをリサーチし、日誌記述の具体例の情報収集をする。(0.5時間)</p>
9	部分指導案の作成	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 指導計画を立てることの意義を知り、部分指導案の記述方法を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 具体的な保育内容をイメージしてその流れを言語化するシミュレーションをする。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で配布された部分指導案のサンプル資料と授業内容の記録メモをもとに、指導案に描写すべき内容と記述方法の理解を深める。(0.5時間)</p>
10	保育技術の習得①	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 「手遊び」を中心にロールプレイ演習に取り組み基本的な遊びの技術を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 他授業のテキストや保育雑誌等を参照して具体的な手遊びを練習しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で配布されたプリント資料や授業内容の記録メモ、記憶を頼りに手遊びの練習を繰り返す。(0.5時間)</p>
11	保育技術の習得②	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 「絵本の読み聞かせ」を中心に、年齢に適した絵本の選び方とロールプレイ演習で絵本の読み聞かせの技術を体験的に学ぶ。</p> <p>【事前学習】 図書館等で乳幼児向けの絵本を見るなど絵本について下調べをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 年齢に適した絵本を再度熟読し、声に出して読み聞かせの練習をする。(0.5時間)</p>

1 2	提出書類の作成	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 実習に関わる種々の事務的な書類と手続きがあることを知り、記述のポイントを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 「実習のてびき」の該当箇所を目を通し、どのような事務手続きと書類が必要かを把握しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布された事務的な書類と資料を適切に整理、保存をしつつ、各書類の必要性の理解を深める。(0.5時間)</p>
1 3	実習の振り返りと自己評価①	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 保育実習Ⅰ(保育所)を振り返り、実習経験からの学びを整理する。</p> <p>【事前学習】 実習日誌を読み返すなどして、実習経験を簡単に振り返っておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で実施した振り返り記述をもとに、あらためて実習日誌を読み返すなどして、実習の学びを整理する。(0.5時間)</p>
1 4	実習の振り返りと自己評価②	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 実習の振り返りと自己評価について、グループディスカッション等のグループワークを通して実習からの学びの情報交換をする。</p> <p>【事前学習】 自身の実習の振り返りと自己評価の内容を他者に説明できるように簡単なシミュレーションをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 ディスカッションや情報交換からの学びも併せて今後の実習への取り組みの見通しを考察する。(0.5時間)</p>
1 5	今後の課題の明確化	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 保育実習Ⅰ(保育所)の振り返りと自己評価等の学びを整理をベースに、保育実習Ⅱにむけて自己の実習課題を明確にする。</p> <p>【事前学習】 再度、保育実習Ⅰ(保育所)の振り返りと学びを整理し、残している実習課題を洗い出しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 実習日誌を核に、実習指導の中で配布されたプリント資料等を保育実習Ⅱに生かせるように整理しておく。(0.5時間)</p>
1 6	施設実習の意義・目的	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 施設実習の概要とその意義、目的について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所を目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。(0.5時間)</p>
1 7	子ども家庭福祉の現状と施設の概要	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 現代の子どもと家庭が置かれている現状と、支援を担う児童福祉施設の役割について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 「子ども家庭福祉」授業テキストや資料等を活用するなどし、現代の子どもと家庭の現状について概要を調べておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 支援のニーズと各児童福祉施設の機能と役割について、配付資料などを熟読し理解を深める。(0.5時間)</p>

1 8	施設と利用する子どもの理解①	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 養護系児童福祉施設の役割と、利用する子どもの背景や理解について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 「子ども家庭福祉」授業テキストや資料等を活用するなどし、養護系児童福祉施設とその利用者についてあらかじめ調べておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 養護系児童福祉施設の機能と利用者の受け入れや理解について、配付資料などを熟読し理解を深める。(0.5時間)</p>
1 9	施設と利用する子どもの理解②	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 障害系児童福祉施設の役割と、利用する子どもの背景や理解について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 障害者の理解に繋がる資料やテキストをあたり、障害系児童福祉施設とその利用者についてあらかじめ調べておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 障害系児童福祉施設の機能と利用者の受け入れや理解について、配付資料などを熟読し理解を深める。(0.5時間)</p>
2 0	保育士の役割と支援方法	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 児童養護施設における保育士の役割と仕事の内容について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所を目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。(0.5時間)</p>
2 1	施設実習の希望調査	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 児童養護施設の種類と具体的な実習受け入れ先の情報を知り、希望する実習先を選定する。</p> <p>【事前学習】 これまでの学んだ児童養護施設の種類と自分自身の実習希望とのマッチングを探しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 希望を絞り込んだ施設の役割や福祉機能について資料をもとに理解を深める。(0.5時間)</p>
2 2	実習先の決定・グループ分け	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 決定された実習先と同じ施設で実習をする学生とグループピングを行い、実習に向けて情報交換を行う。</p> <p>【事前学習】 希望を絞り込んだ施設の役割や福祉機能について資料をもとに理解を深めておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 同じ施設に実習に行く学生と実習の課題や目的意識を報共有するようにする。(0.5時間)</p>
2 3	児童福祉施設保育士の講話	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 児童養護施設勤務の現場保育士の講話を聞き、現場の実際を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 講師の職場についてあらかじめ施設の種類や特徴について調べておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 児童養護施設における保育者の仕事について、これまでの学習で理解していたことと実際の様子との差異を認識し、施設と利用者の理解をいっそう深めていく。(0.5時間)</p>

2 4	実習中の心得・目標と課題	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 実習生あるいは社会人として利用者の前に立つことを前提にした心構えについて学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や、広く人権擁護と福祉に関わる資料に目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て自分自身の日々の生活の有り様を見直す。(0.5時間)</p>
2 5	実習における観察の視点と記録の方法	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 利用者のニーズを酌み取り心情理解に繋がる一人ひとりを対象にしたミクロな視点からの観察とその記録の方法を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所に目を通し、実習日誌の記述部分などを確認しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 幼稚園や保育所での実習記録・日誌の記述と比較しながら施設実習における観察と記録のコツを理解する。(0.5時間)</p>
2 6	提出書類の作成	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 実習に関わる種々の事務的な書類と手続きがあることを知り、記述のポイントを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 「実習のてびき」の該当箇所に目を通し、どのような事務手続きと書類が必要かを把握しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布された事務的な書類と資料を適切に整理、保存をしつつ、各書類の必要性の理解を深める。(0.5時間)</p>
2 7	実習報告書の作成	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 実習を終えて、実習先で得た情報や学びを、個人情報に配慮しながら報告書にまとめていく。</p> <p>【事前学習】 実習日誌の記述内容に目を通し、実習経験を報告書にまとめることができるように事前に情報を整理しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 同じ施設で実習をした学生と報告書の記述内容について比較するなどして実習で得た知見を広げる。(0.5時間)</p>
2 8	実習の振り返りと自己評価①	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 保育実習Ⅰ（施設）を振り返り、実習経験からの学びを整理する。</p> <p>【事前学習】 実習日誌を読み返すなどして、実習経験を簡単に振り返っておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で実施した振り返り記述をもとに、あらためて実習日誌を読み返すなどして、実習の学びを整理する。(0.5時間)</p>
2 9	実習の振り返りと自己評価②	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 実習の振り返りと自己評価について、グループディスカッション等のグループワークを通して実習からの学びの情報交換をする。</p> <p>【事前学習】 自身の実習の振り返りと自己評価の内容を他者に説明できるように簡単なシミュレーションをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 ディスカッションや情報交換からの学びも併せて今後の実習の取り組みの見通しを考察する。(0.5時間)</p>

30	評価表と自己理解・今後の課題	施設 担当 教員	<p><b>【学習内容】</b>          保育実習Ⅰ（施設）の振り返りと自己評価および実習先からの評価をベースに、施設実習の学びを「保育者の仕事」として理解を深め、以降の実習への課題に繋げていく。</p> <p><b>【事前学習】</b>          再度、保育実習Ⅰ（施設）の振り返りと学びを整理し、残している実習課題を洗い出しておく。（0.5時間）</p> <p><b>【事後学習】</b>          単に児童福祉施設における保育者の仕事ではなく、幼稚園や保育所においても必要とされる広義の保育者の役割と仕事の理解に繋がる考察をする。（0.5時間）</p>
----	----------------	----------------	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
在宅保育		菅原 亜紀		2	前期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE2401		
		担当教員	菅原 亜紀					
幼	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系列	保育の対象の理解に関する科目						選択必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	ベビーシッター	子育て支援のひとつとして訪問型の「在宅保育」があげられます。「在宅保育」の特殊性を理解し、その心構えや保育マインドについて学び、同時に技術・技能を身につけられるようにします。						
2	子育て支援							
3	個別保育							
4	訪問型保育							
5	保護者支援							
<b>【到達目標】</b>		1. 「在宅保育」の考え方や、在宅における子育て支援の意義およびその在り方が理解できる。 2. さまざまな子ども・家庭を支援するための心構えや保育マインドが理解できる。 3. 在宅の保育において必要な技術を習得することができる。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>								関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標		試験		提出物および受講態度			合計	
評価割合 (%)		60		40			100	
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E		F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績		受験資格なし (出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0		0	

評語	評価の基準	
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。	
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。	
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。	
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。	
<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b>		
授業内でフィードバックを行う。定期試験に関しては、模範解答とコメントを学生に提示する。		
<b>【教科書】</b>		
『家庭訪問保育の理論と実際』 社団法人全国保育サービス協会 中央法規		
<b>【参考書・参考資料等】</b>		
講義中に紹介します。		
<b>【関連科目】</b>		
保育士資格取得に必要な科目		
<b>【受講心得】</b>		
全員が安心して講義を受けられるよう、それぞれが意識して受講すること		
<b>【備考】</b>		
保育士課程選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1		オリエンテーション いのちについて  ＜学習内容＞授業の概要他、授業に関するオリエンテーションを行う。いのちが生まれるということについて考える。また、在宅保育で大切にしたい保育マインドについて学ぶ。
2		保育マインド  ＜事前学習＞シラバス（講義要項）に目をとおしておく。（30分） ＜事後学習＞授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
3		在宅保育の概要  ＜学習内容＞在宅保育の概要について学ぶ。また、実際のベビーシッターの業務についてDVDを使って学ぶ。
4		在宅保育の実際  ＜事前学習＞教科書を読んでおく。（30分） ＜事後学習＞授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）

5	乳幼児の発達と生活		<p>&lt;学習内容&gt;乳幼児の発達と生活について確認するとともに大事にしたい大人のかかわりについて考える。また、個別保育の特性から職業倫理について考える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;教科書を読んでおく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
6	職業倫理とリスクマネジメント		
7	在宅保育における健康管理と事故対策①		<p>&lt;学習内容&gt;在宅保育における健康管理について学ぶ。事故対策については事例とDVDを参考に、実際に対応ができるよう考えていく。</p> <p>&lt;事前学習&gt;教科書を読んでおく。(子どもの保健の教科書を含む)(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
8	在宅保育における健康管理と事故対策②		
9	保護者への対応		<p>&lt;学習内容&gt;在宅保育における保護者支援について考えていく。その特性をいかした支援と配慮すべき点などを学ぶ。子どもの虐待についても個別保育とその特性をふまえて考えていく。</p> <p>&lt;事前学習&gt;教科書を読んでおく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
10	子ども虐待		
11	特別な配慮を必要とする子どもへの対応①		<p>&lt;学習内容&gt;特別な配慮を必要とする子どもへの対応について、発達障害とRADを中心に学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;今までに出会った子どもたちの姿を思い返しておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
12	特別な配慮を必要とする子どもへの対応②		

1 3	子どもや保護者からの相談①		<p>&lt;学習内容&gt;在宅保育の特性から子どもや保護者からの相談について考える。実践的に相談を受ける練習をする。</p> <p>&lt;事前学習&gt;普段相談を受ける際に気を付けていることなどをまとめておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
1 4	子どもや保護者からの相談②		
1 5	在宅保育の保育技術と遊び まとめ		<p>&lt;学習内容&gt;在宅保育の特性を活かしたあそびと保育技術について考える。また、授業のまとめを行う。</p> <p>&lt;事前学習&gt;今までの授業のプリントなどを振り返っておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
1 6	試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究Ⅲ		難波 章人		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2312		
		担当教員	難波章人、谷川裕子、豊辻晴香、砥上あゆみ、菅原亜紀					
幼	科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法						
保	系列	保育の内容・方法に関する科目						選択必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	保育技術	学生一人ひとりの個性（興味や関心、得意な分野）をもとに、基本的技術・技能と指導技術について学習する。また、地域（幼稚園や保育所など）におけるサービスラーニングなどをおこなう。						
2	個性							
3	指導法							
4	地域							
5	サービスラーニング							
<b>【到達目標】</b>		1. 個々の特性を活かした保育・教育の専門性に気付くことができる。 2. 保育・教育指導に関する学習内容を、具体的な実践の場において検証することができる。 3. 保育における効果的な指導法を追究することができる。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>								関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
<b>【成績評価の方法】各表現活動における</b>								
成績指標	受講態度等		各活動におけるレポート・提出物		各活動発表		合計	
評価割合（％）	40		40		20		100	
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E		F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績		受験資格なし（出席回数不足）	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0		0	

評語	評価の基準	
S	積極的に取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物の内容が十分である。	
A	取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物の内容が十分である。	
B	取り組み内容を理解しているが、課題・提出物の内容が不十分である。	
C	取り組み内容の概要を理解しているが、課題・提出物が最低限の内容に留まっている。	
<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> レポートについてコメントを返却するので確認して返答すること。		
<b>【教科書】</b> 特に指定しない。		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義の中で紹介する。		
<b>【関連科目】</b> 「保育・教育基礎研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」 「保育内容に関する科目全般」 「子どもの理解に関する科目全般」 「保育・教職実践演習」		
<b>【受講心得】</b> プロの保育者・教育者を目指す志をもって臨む。		
<b>【備考】</b> 保育士課程 選択必修		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 オリエンテーション	全員	<学習内容>保育・教育指導法の目的と内容及び進め方について説明する。 <事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（0.5時間） <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
2 サービスラーニングの実際①	全員	<学習内容>5つのグループ分けを行う。それぞれグループごとに計画を立てる。 <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
3 サービスラーニングの実際②	全員	<学習内容>各グループごとに、サービスラーニングとしてこどもまつりに向けての準備を始める。 <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
4 サービスラーニングの実際③	全員	<学習内容>製作等準備① <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
5 サービスラーニングの実際④	全員	<学習内容>製作等準備② <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）

6	サービスラーニングの実際⑤	全員	<学習内容>製作等準備③ <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。 (0.5時間) <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (0.5時間)
7	サービスラーニングの実際⑥	全員	<学習内容>製作等準備④ <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。 (0.5時間) <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (0.5時間)
8	サービスラーニングの実際⑦	全員	<学習内容>製作等準備⑤ <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。 (0.5時間) <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (0.5時間)
9	サービスラーニングの実際⑧	全員	<学習内容>製作等準備⑥ <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。 (0.5時間) <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (0.5時間)
10	サービスラーニングの実際⑨	全員	<学習内容>製作等準備⑦ <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。 (0.5時間) <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (0.5時間)
11	サービスラーニングの実際⑩	全員	<学習内容>こどもまつり当日のための環境構成を考慮して準備を行う。 <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。 (0.5時間) <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (0.5時間)
12	サービスラーニングの実際⑪	全員	<学習内容>こどもまつりにおいて園児たちに遊びを提供する。 <事前学習>打ち合せ内容を確認のこと。 (0.5時間) <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (0.5時間)
13	サービスラーニングの実際⑫	全員	<学習内容>こどもまつりにおいて園児たちに遊びを提供する。 <事前学習>打ち合せ内容を確認のこと。 (0.5時間) <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (0.5時間)
14	サービスラーニングの実際⑬	全員	<学習内容>こどもまつりにおいて園児たちに遊びを提供する。 <事前学習>打ち合せ内容を確認のこと。 (0.5時間) <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (0.5時間)

1 5	振り返りとまとめ	全員	<p>&lt;学習内容&gt;こどもまっりの振り返りと検討会を行う。</p> <p>&lt;事前学習&gt;反省を各自考えておく。 (0.5時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (0.5時間)</p>
-----	----------	----	--

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数	
音楽表現Ⅳ		豊辻 晴香	2	通年	演習	選択	1	
		担当形態	複数教員		ナンバリング	CE2314		
		担当教員	下村恭子・多田裕子・豊辻晴香 福田陽子・水崎玄・淀川典子					
幼	科目	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目					選択必修	
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	ピアノ演奏	音楽的に豊かな表現力と指導力が備わった保育・教育者となれるよう、個々のピアノ演奏技術を向上することを目的とする。前半には、音楽表現Ⅰ～Ⅲの復習や即興的伴奏法を学び、後半では各自が選択した課題内容（アニメーションやクラシックといった幅広いジャンルの楽曲の独奏や連弾等）にも挑戦する。また、最後に発表会を企画・運営・実演することで、2年間で培った演奏技術を披露するだけでなく、音楽の魅力的な提供法についても研究する。						
2	音楽的表現							
3	即興的伴奏法							
4	弾き歌い							
5	ピアノ楽曲							
<b>【到達目標】</b>		1. 既習・体得した演奏技術を維持・向上させ、多様な楽曲のレパートリーを増やすことができる。 2. 幅広く豊かな音楽的表現ができるよう、演奏技術を身に付け実践することができる。 3. メロディに即興でコード和音を付けながら、伴奏することができる。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>							関連性	
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○	
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							○	
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	取り組み姿勢・授業態度			発表会		合計		
評価割合 (%)	80			20		100		
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	講義内容を十分に理解しており、学んだ知識や技術を活かし優れた演奏である。							
A	講義内容を理解しており、学んだ知識や技術を活かした演奏である。							
B	講義内容を総じて理解しているが、学んだ知識や技術を活かしきれていない演奏である。							
C	講義内容の概要を理解しており、学んだ知識や技術が最低限みられる演奏である。							

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 発表会の評価や内容について、終了時にその都度口頭で伝える。		
<b>【教科書】</b> 『ユニバーサルデザインの音楽表現』 星山麻木（編著） 萌文書林 / その他、適時資料配布		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 『こどものうた200』『続・こどものうた200』 小林美実（編者） チャイルド本社 『あなたも弾ける やさしい童謡唱歌集』 木村鈴代（編著） 同文書院		
<b>【関連科目】</b> 「音楽表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「音楽表現指導法」「子どもと表現」		
<b>【受講心得】</b> ピアノ演奏は毎日の積み重ねが重要なため、予習復習を心がける。習熟度により、学習進行や順番が変わることもある。		
<b>【備考】</b> 保育士課程選択必修		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 オリエンテーション および ピアノ演奏・弾き歌いの発展①	各教員	<学習内容>本授業の目的や進行等について理解する。また、既習曲の復習をする。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
2 ピアノ演奏・弾き歌いの発展②	各教員	<学習内容>既習曲を復習しつつ、保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
3 ピアノ演奏・弾き歌いの発展③	各教員	<学習内容>既習曲を復習しつつ、保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
4 ピアノ演奏・弾き歌いの発展④ 弾き歌い発表会	各教員	<学習内容>任意の1曲をクラス全体の前で弾き歌いし、集団の場におけるピアノ演奏と歌唱の経験を積む。 <事前学習>発表会に向けて、練習に励む。（3時間） <事後学習>発表会での振り返りを基に、復習する。（3時間）
5 弾き歌いの伴奏法①	各教員	<学習内容>メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
6 弾き歌いの伴奏法②	各教員	<学習内容>メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）

7	弾き歌いの伴奏法③	各教員	<p>&lt;学習内容&gt;メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
8	弾き歌いの伴奏法④	各教員	<p>&lt;学習内容&gt;メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
9	ピアノ楽曲の取り組み①	各教員	<p>&lt;学習内容&gt;多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
10	ピアノ楽曲の取り組み②	各教員	<p>&lt;学習内容&gt;多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
11	ピアノ楽曲の取り組み③	各教員	<p>&lt;学習内容&gt;多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
12	ピアノ楽曲の取り組み④	各教員	<p>&lt;学習内容&gt;多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
13	ピアノ楽曲の取り組み⑤	各教員	<p>&lt;学習内容&gt;多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
14	ピアノ楽曲の取り組み⑥ —発表会の準備—	各教員	<p>&lt;学習内容&gt;全体発表会に向けて、演奏内容を高めるとともに、聴衆も楽しめる発表の仕方を考え備える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;&lt;事前学習&gt;発表会に向けて、準備・練習に励む。(3時間)</p>
15	全体発表会	各教員	<p>&lt;学習内容&gt;これまでの成果を発揮しながら、クラス全体の前で演奏披露する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;発表会に向けて、練習に励む。(3時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;今後活かせるよう、全体発表会で学んだことを振り返る。(1時間)</p>

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習Ⅱ		砥上 あゆみ		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2316		
		担当教員	豊辻晴香、砥上あゆみ、島中智恵					
幼	科目	施行規則に定める科目区分又は事項等						
保	系列	保育実習						選択必修
【キーワード】		【概要】						
1	職業倫理	「保育実習Ⅰ」での学びを踏まえて、保育実践力の向上を目指す。子どもの観察とその記録及び子どもの援助やかかわり方、環境構成など、様々な実践を通して総合的に学ぶ。指導計画の立案、指導案の作成、実習記録に基づく省察等、記録を保育にいかす方法を習得する。さらに、専門職としての保育士の役割、職業倫理を学ぶ、自己の課題を明確にする。						
2	子ども理解							
3	保育記録							
4	保育計画							
5	連携・協働							
【到達目標】		1. 子どもの観察やかかわりの視点を明確にし、保育の理解を深めることができる。 2. 保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について、総合的に理解できる。 3. 実習における自己の課題を明確にすることができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
【成績評価の方法】								
成績指標	実習評価			提出物		合計		
評価割合 (%)	70%			30%		100		
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	積極的に取り組み内容を十分に理解しており、課題に必要な内容を的確に記述している。							
A	取り組み内容を十分に理解しており、課題に必要な内容を十分に記述している。							
B	取り組み内容を理解しているが、課題に必要な内容の記述が十分ではない。							
C	取り組み内容の概要を理解しているが、課題が最低限の内容の記述に留まっている。							

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 提出された課題については、返却を行い、要点を確認する。		
<b>【教科書】</b> 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 適宜、プリントを配布する。		
<b>【関連科目】</b> 「保育実習Ⅰ」「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」		
<b>【受講心得】</b> 保育実習Ⅰの経験をいかし、学びを深めるために、自己の課題を明確にし、改善に努めること。		
<b>【備考】</b> 保育士資格選択必修		
<b>【学習項目】</b>		<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
<p>&lt;実習内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 養護と教育が一体的に展開される保育の理解および技術の習得を目指す。</li> <li>2. 子どもの最善の利益を考慮した保育の実際を理解および保育の展開の習得を目指す。</li> <li>3. 保護者・家庭への支援と地域社会等の連携および保育者間でのチームワークの理解を目指す。</li> <li>4. 全体的な計画に基づく保育指導計画の作成・実践・省察・評価の理解および実践力の向上を目指す。</li> </ol> <p>&lt;事前学習&gt;（3時間） 実習目標をしっかりとたて、目標を達成するために保育の知識のふりかえり、保育技術の向上に取り組むこと。</p> <p>&lt;事後学習&gt;（3時間） 日々の実習目標をふりかえり、自己省察し、常に保育の知識・技術の習得に励むこと。</p>		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習Ⅲ		菅原 亜紀		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2317		
		担当教員	菅原亜紀 古野愛子					
幼	科目	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列	保育実習						選択必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	実習	保育実習Ⅰ（施設）をふまえて、保育実習Ⅲでは、より具体的な支援・技術を養っていきます。より学びが深まるよう、子ども理解や保護者および家庭支援など具体的な実践に結びつけて参加型実習を行います。						
2	施設							
3	障害							
4	社会的養護							
5	子ども家庭福祉							
<b>【到達目標】</b>		1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能についての理解を深めることができる。 2. 子どもやその家庭への理解をもとに、支援のための知識、技術を理解することができる。 3. 保育士としての自己課題を明確化することができる。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>		関連性						
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○						
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○						
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○						
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	実習の評価		提出物			合計		
評価割合（％）	70		30			100		
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	実習課題を十分に理解しており、的確に実践や記録に結びつけることができる。							
A	実習課題をよく理解しており、十分に実践や記録に結びつけることができる。							
B	実習課題を理解しており、実践や記録に結びつけることができる。							
C	総じて実習課題を理解しており、実践や記録に最低限結びつけることができる。							

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 実習日誌等の評価とフィードバックは返却時に行う。		
<b>【教科書】</b> 63期生「実習の手引き」		
<b>【参考書・参考資料等】</b>		
<b>【関連科目】</b> 「保育実習Ⅰ」「保育実習指導」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」 「特別支援教育Ⅰ」「特別支援教育Ⅱ」		
<b>【受講心得】</b> ・短い実習期間を有意義に過ごすために、意欲をもって参加し、事前準備や実習の記録を具体的に行うこと		
<b>【備考】</b>		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
<p>実習は、2年次の7月以降、施設との調整のうえ10日間参加型実習を行う。</p> <p><b>【実習課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設の役割と機能</li> <li>2. 実習施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>①受容、共感する態度</li> <li>②子どものニーズの把握と子ども理解</li> <li>③個別支援計画作成と実践の様子</li> <li>④家庭支援と対応</li> <li>⑤多様な専門職との連携</li> <li>⑥地域との連携</li> </ol> </li> <li>3. 保育士の業務と職業倫理</li> <li>4. 保育士としての自己課題の明確化</li> </ol> <p>&lt;事前学習&gt;実習指導の内容を確認し、実習に向けて準備を行うこと（1時間） &lt;事後学習&gt;実習で学んだことを整理すること（1時間）</p>		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習指導Ⅱ		砥上 あゆみ		2	通年	演習	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2318		
		担当教員	豊辻晴香、砥上あゆみ、畠中智恵					
幼	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系列	保育実習						選択必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	養護	・保育実習Ⅱの意義、目的を理解し、実習生としての必要な資質・知識・技術を演習をとおして学ぶ。自己の保育実践をふりかえり、保育士の専門性や職業倫理などについても理解を深めていく。						
2	教育							
3	実習							
4	職業倫理							
5	保育技術							
<b>【到達目標】</b>		1. 保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育について総合的に理解することができる。 2. 保育実習Ⅰや既習の教科目内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得することができる。 3. 保育実践をふりかえり、保育者としての知識および技術の習得、資質について、自己課題を明確にできる。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>								関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	受講態度			提出物			合計	
評価割合 (%)	70%			30%			100	
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	積極的に取り組み内容を十分に理解しており、課題に必要な内容を的確に記述している。							
A	取り組み内容を十分に理解しており、課題に必要な内容を十分に記述している。							
B	取り組み内容を理解しているが、課題に必要な内容の記述が十分ではない。							
C	取り組み内容の概要を理解しているが、課題が最低限の内容の記述に留まっている。							

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 提出された課題については、返却を行い、要点を確認する。		
<b>【教科書】</b> 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 適宜、プリントを配布する。		
<b>【関連科目】</b> 「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅰ」		
<b>【受講心得】</b> 専門職である保育士の資格取得に係る実習ですので、意欲的に、責任感をもって参加すること。探求心をもち、学ぼうとする姿勢で臨んでください。		
<b>【備考】</b> 保育士資格選択必修		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 保育実習Ⅱの意義、目的	全員	保育実習Ⅰ（保育所）での学びを基に、保育実習Ⅱの意義や目的について学ぶ。 事前学習（0.5時間） シラバスを読んでおくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
2 保育士の専門性と職業倫理	全員	保育実習Ⅰ（保育所）の学びを基に、保育士の専門性や職業倫理について、考えていく。 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
3 子どもの最善の利益を考慮した保育の実際①	全員	各々の実習での気づきや学びを共有し、深めていく。 ・子どもの観察に基づいて 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
4 子どもの最善の利益を考慮した保育の実際②	全員	各々の実習での気づきや学びを共有し、深めていく。 ・子どもと保育者の関係性に基づいて 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
5 子どもの最善の利益を考慮した保育の実際③	全員	各々の実習での気づきや学びを共有し、深めていく。 ・保育士としての役割について 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
6 保育の知識・技術をいかした保育実践①	全員	保育実習Ⅰ（保育所）の学びを基礎とし、自己の課題を明確にし、保育技術の習得の向上を目指す。 事前学習（1時間） 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。

7	保育の知識・技術をいかした保育実践②	全員	保育実習Ⅰ（保育所）の学びを基礎とし、自己の課題を明確にし、保育技術の習得の向上を目指す。 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
8	保育実習Ⅱの書類準備	全員	保育実習Ⅱで使用する書類を作成する。 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅱでの必要書類について確認しておくこと。 事後学習（0.5時間） 書類を完成させ、確認しておくこと。
9	保育の計画と実践①	全員	既習の教科目の知識、保育実習Ⅰの経験をいかしながら、指導案の作成をおこなう。 事前学習（1時間） 対象年齢の保育内容について、考えておくこと。 事後学習（1時間） 指導案を完成させる。
10	保育の計画と実践②	全員	既習の教科目の知識、保育実習Ⅰの経験をいかしながら、指導案の作成をおこなう。 事前学習（0.5時間） 対象年齢の保育内容について、考えておくこと。 事後学習（1時間） 指導案を完成させる。
11	保育の計画と実践③	全員	作成した指導案の評価や改善の視点を学ぶ。 事前学習（0.5時間） 指導案を見直し、気づいた点をまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 要点を整理しておくこと。
12	実習日誌の記録について	全員	保育実習Ⅰ（保育所）の実習記録を見直し、改善点や自己の課題を見出す。また、保育実習Ⅱでさらに記録の内容が深まるようにポイントを示していく。 事前学習（1時間） 対象年齢の保育内容について、考えておくこと。 事後学習（1時間） 指導案を完成させる。
13	実習の総括と自己評価	全員	保育実習の総括を行う。 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅱをふりかえり、気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 要点を整理しておくこと。
14	自己課題の明確化	全員	これまでの実習をふりかえり、自己の課題を明確にする。 事前学習（0.5時間） 保育実習をふりかえり、気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 自己課題を明確にし、記録しておくこと。
15	保育士の資質およびまとめ	全員	専門職として欠かせない保育士の資質について考えていく。 事前学習（1時間） 保育士の資質について、自分なりの考えをまとめておくこと。 事後学習（1時間） 気づき等をまとめておくこと。

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習指導Ⅲ		菅原 亜紀		2	通年	演習	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2319		
		担当教員	菅原亜紀 古野愛子					
幼	科目	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列	保育実習						選択必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	実習	保育実習Ⅰ（施設）をふまえて、児童福祉施設（保育所以外）についてより学びを深めます。子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解を深め、支援の実際について考えていきます。その中で、保育士としての役割や業務内容、職業倫理について学び、保育実習Ⅲでの実践に結びつけていきます。						
2	施設							
3	障害							
4	社会的養護							
5	子ども家庭福祉							
<b>【到達目標】</b>		1. 児童福祉施設（保育所以外）における保育士の役割や業務内容、職業倫理について理解することができる。 2. 子どもやその家庭への理解を深め、支援しようとするすることができる。 3. 保育士としての自己課題を明確化することができる。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>								関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	受講態度			提出物			合計	
評価割合（％）	50			50			100	
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満了した成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	講義内容を十分に理解しており、的確に実践や記録に結びつけることができる。							
A	講義内容をよく理解しており、十分に実践や記録に結びつけることができる。							
B	講義内容を理解しており、実践や記録に結びつけることができる。							
C	総じて講義内容を理解しており、実践や記録に最低限結びつけることができる。							

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> プリントを返却し、フィードバックを行う。		
<b>【教科書】</b> 63期生「実習の手引き」 その他、適宜プリント、資料を配布します。		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義内で紹介します。		
<b>【関連科目】</b> 「保育実習Ⅲ」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」「特別支援教育Ⅰ」「特別支援教育Ⅱ」		
<b>【受講心得】</b> 様々な児童福祉施設に興味をもち、意欲的に参加してください。遅刻・欠席、提出物の遅れなどが多い場合には、実習に関する指導が十分でないと判断し、実習を中止とすることがあります。		
<b>【備考】</b>		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 保育実習Ⅰ（施設）の振り返り①	菅原古野	＜学習内容＞保育実習Ⅰ（施設）でのふりかえりを行う。同じ種別のみでなくさまざまな種別で実習を行った学生とふりかえりを共有し、支援のあり方や施設の役割等について考える。 ＜事前学習＞実習日誌を読み返し、実習で感じたことや学んだことをふりかえっておく。（1時間） ＜事後学習＞授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
2 保育実習Ⅰ（施設）の振り返り②	菅原古野	＜学習内容＞保育実習Ⅲでは、どのような学びをし、保育実習Ⅰ（施設）をふまえてどのように学びを深めていくのかを学ぶ。 ＜事前学習＞シラバス（講義要項）に目を通しておく。（30分） ＜事後学習＞授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
3 保育実習Ⅲの意義と目的	菅原	＜学習内容＞児童福祉施設（保育所以外）の役割と機能について学ぶ。 ＜事前学習＞社会的養護Ⅰでの学びを振り返っておく。（30分） ＜事後学習＞授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
4 児童福祉施設の役割と機能について	菅原	＜学習内容＞施設における支援の実際について学ぶ。 ＜事前学習＞社会的養護Ⅰでの学びを振り返っておく。（30分） ＜事後学習＞授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
5 子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援の実際	菅原	＜学習内容＞児童福祉施設（保育所以外）の特性をふまえて、保育士としての役割と職業倫理について考える。 ＜事前学習＞保育士の役割や倫理とは何か考えておく。（30分） ＜事後学習＞授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
6 児童福祉施設における保育士の役割と職業倫理	菅原	＜学習内容＞子どもの最善の利益とは何か。保育士としてどのような視点で考えていけばよいのかを検討する。 ＜事前学習＞子ども家庭福祉の教科書を確認しておく。（30分） ＜事後学習＞授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
7 子どもの最善の利益を考慮した保育	菅原	＜学習内容＞子どもの最善の利益とは何か。保育士としてどのような視点で考えていけばよいのかを検討する。 ＜事前学習＞子ども家庭福祉の教科書を確認しておく。（30分） ＜事後学習＞授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）

8	子どもの姿とその背景にあるもの	菅原	<p>&lt;学習内容&gt;児童福祉施設（保育所以外）に入所している子どもたちへの理解とその背景にある家庭、社会について考える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;児童福祉施設（保育所以外）にはどのような子どもたちが入所しているのかを確認しておく。（30分）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）</p>
9	実習施設について理解を深める	菅原	<p>&lt;学習内容&gt;自分が実習する施設について調べ、理解を深める。</p> <p>&lt;事前学習&gt;必要な本などを図書館で借りて準備しておく。（30分）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）</p>
10	実習の目標 実習生調書作成	菅原 古野	<p>&lt;学習内容&gt;実習の目標について考え、グループで発表する。また、実習生調書の作成を行う。</p> <p>&lt;事前学習&gt;実習施設について調べた資料や、調書に記入する際に必要な情報をまとめておく。（30分）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）</p>
11	実習日誌について 子どもを観る視点	菅原 古野	<p>&lt;学習内容&gt;施設における日誌の書き方や、子どもを観る際の視点、大切にしたい視点などを学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;実習の手引きを確認しておく。（30分）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）</p>
12	保育実習Ⅲの振り返り①	菅原 古野	<p>&lt;学習内容&gt;保育実習Ⅲのふりかえりを行う。同じ種別のみでなくさまざまな種別で実習を行った学生とふりかえりを共有し、支援のあり方や施設の役割等について考える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;実習日誌を読み返しておく。（30分）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）</p>
13	保育実習Ⅲの振り返り②	菅原 古野	
14	児童福祉施設における保育の実際と今後の展望	菅原	<p>&lt;学習内容&gt;実習で学んだことを中心に、児童福祉施設（保育所以外）における保育の実際について考え、課題や今後の展望について意見交換する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;実習で見えてきた課題についてまとめておく。（30分）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）</p>
15	実習の総括と自己評価・課題の明確化	菅原 古野	<p>&lt;学習内容&gt;自分自身の実習の総括を行い、自己評価をする。また、個々の課題を明確化し、何が必要なのかを考える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;実習のふりかえりを見返しておく。（30分）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）</p>

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育実習指導		難波 章人		2	通年	演習	選択	1
		担当形態	オムニバス	ナンバリング		CE2206		
		担当教員	青沼典子 谷川裕子 難波章人					

  

幼	科目	教育実践に関する科目		必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育実習		
保	系列			

  

<b>【キーワード】</b>	<b>【概要】</b>
1 教育実習	教育実習Ⅰでの学びを生かし、教育実習Ⅱにおいて課題を持ち実習に臨めるよう学習する。教育実習Ⅱでは各講義での修得した理論を実践へ結びつけることができるように本授業においては、子どもの発達に応じた指導案作成と保育技術の向上に努める。また指導計画の作成・実践・評価を通して、保育者としての質の高い実践力を養う。また専門職として人間性と専門性の向上に努めることのできる基礎を養う。
2 幼稚園	
3 事前指導	
4 事後指導	
5 実践	

  

<b>【到達目標】</b>
1. 子ども理解と保育者としての援助の仕方を理解した指導案を作成することができる。
2. 保育のねらいに沿って指導計画として立案し、具体的な保育として展開できる。
3. 実習の総括を行い自己課題解決に向けて学習目標を持つ。

  

<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>	関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	
<b>【思考・判断・表現】</b>	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
<b>【関心・意欲・態度】</b>	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

  

<b>【成績評価の方法】</b>			
成績指標	取り組み姿勢	提出物	合計
評価割合 (%)	60%	40%	100

  

<b>【成績評価の基準】</b>						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準		
S	幼稚園教諭を目指すという明確な目標を持ち、なおかつ主体的に取り組む。講義内容も十分に理解している。		
A	実習生としての自覚を持ち、課題に対して必要な内容を理解している。		
B	実習内容を総じて理解し、課題に対して取り組んでいる。		
C	実習内容を理解しており、課題に対して最低限の評価が可能である。		
<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b>			
<b>【教科書】</b> 『実習の手引き』 純真短期大学こども学科 『幼稚園教育要領解説』 文科省フレーベル館			
<b>【参考書・参考資料等】</b> 適宜紹介			
<b>【関連科目】</b> 「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」			
<b>【受講心得】</b> 教育実習を前提とした科目であるため、特別な理由を除き欠席することなく参加すること。 欠席した場合は授業内容を担当教員に確認すること。			
<b>【備考】</b> 幼稚園教諭課程必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	幼稚園教諭の資質と教育実習の意義・目的	谷川	【学習内容】 幼児教育の理論を理解し、幼稚園の役割、幼稚園教諭の役割を理解する。また教育実習の意義・目的を確認する。 【事前学習】 幼稚園教育要領第1章総則を読んでおく。（0.5時間） 【事後学習】 学習内容を振り返る、わからなかった語彙、内容を整理する。（0.5時間）
2	実習園の選定・概要および個人調書の記入	難波	【学習内容】 実習園に向けて情報収集の仕方と選定する方法を学び、実習園への書類作成をします。 【事前学習】 自身の履歴を確認しておく。（1時間） 【事後学習】 書類の書き上げ（1時間）
3	指導案の立案（部分実習）と保育の展開	青沼	【学習内容】 教育実習Ⅰにおける部分実習の指導を見直し、Ⅱにおける実習時期に沿った指導案を立案する。 【事前学習】 発達時期に応じた子どもの姿を調べておく。（1時間） 【事後学習】 立案の見直し（0.5時間）
4	模擬保育	谷川	【学習内容】 指導案に沿って実践する。 【事前学習】 指導案の見直し（1時間半） 【事後学習】 自己課題を記述する。（0.5時間）
5	指導案の立案（1日実習）と保育の展開	難波	【学習内容】 教育実習Ⅰにおける指導案を見直し指導案を立案する 【事前学習】 発達に応じた子どもの姿を調べておく。（1時間） 【事後学習】 立案の見直し（0.5時間）

6	実習における諸注意	谷川	<p>【学習内容】教育実習Ⅱにおける実習生としての態度や姿勢について、準備物の確認及び、学習目標を明確にする。</p> <p>【事前学習】教育実習Ⅰの振り返り（0.5時間）</p> <p>【事後学習】学習内容の整理（1時間）</p>
7	教育実習Ⅱにおける振り返り	難波	<p>【学習内容】教育実習Ⅰにおける記録と実習園からの評価に基づき、自己課題を見出す</p> <p>【事前学習】教育実習日誌を振り返る（0.5時間）</p> <p>【事後学習】学習内容を振り返り整理する（0.5時間）</p>
8	教育実習ⅠおよびⅡのまとめ	谷川	<p>【学習内容】教育実習の振り返りを行います。</p> <p>【事前学習】教育実習日誌を振り返る（0.5時間）</p> <p>【事後学習】</p>

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育実習Ⅱ		難波 章人		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2320		
		担当教員	青沼典子 谷川裕子					
幼 保	科 目	教育実践に関する科目						選択必修
	系 列	施行規則に定める科目区分 又は事項等		教育実習				
【キーワード】		【概要】						
1	教育実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育観察と参加をしながら、部分的な設定保育や全日実習など、子どもを対象にしたより具体的な保育実践に取り組み、教育実習Ⅰの経験と学びを深める。</li> <li>・ 子どもの発達理解や心情理解をもとに、子どもとの信頼を深める実践的なかかわりを大切にしつつ、クラス集団を対象とした保育や指導について「保育のねらい」を明確にした指導計画を立案し、部分実習や全日実習に取り組む。</li> <li>・ 保育環境の整備や教員間の連携や協同、家庭や地域との連携など多岐にわたる幼稚園教諭の業務内容について理解を深める。</li> </ul>						
2	幼稚園							
3	幼稚園教諭							
4	実地体験							
5	保育実践							
【到達目標】		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指導計画をもとに保育のねらいを達成するための適切な教材研究や準備、練習等に取り組むことができる。</li> <li>2. 設定保育や全日実習の保育実践の結果を振り返り、指導計画の修正や改善の手がかりを捉えて次の保育実践に生かすことができる。</li> <li>3. 幼稚園教諭の多岐にわたる教育活動や教員間の連携等の理解を深め、実習以降の学習課題を明確にすることができる。</li> </ol>						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
【成績評価の方法】								
成績指標	実習園の評価			実習に対する取り組み			合計	
評価割合 (%)	80%			20%			100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準
S	実習生としての自覚を持ち、自己課題解決に努める姿が実習園からも評価されている。
A	実習生としての意識を持ち、学びに繋げる努力が実習園から評価されている。
B	実習生としての態度で臨むことができるが、学びを得るための積極性に欠けた評価となっている。
C	実習生として参加することができ、最低限の知識を習得できた。
<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 実習園の指示に従う。	
<b>【教科書】</b> 『実習の手引き』（純真短期大学こども学科） 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）	
<b>【参考書・参考資料等】</b> 『保育指導案大百科事典』 開仁志編著（一藝社） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）	
<b>【関連科目】</b> 「教育実習指導」 「教育実習Ⅰ」	
<b>【受講心得】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業倫理を守り、子どもの人権を尊重することを心がける。</li> <li>・実習現場である幼稚園の教育方針を理解し、実習生といえどもその園の「一教員」として子どもの前に立つ自覚を持つ。</li> <li>・謙虚な態度をもって実習園のメンター教員の指導・助言を受け、学びを得る努力をする。</li> </ul>	
<b>【備考】</b> 幼稚園教諭免許 選択必修	
<b>【学習項目】</b>	
<p>※2週間の実習期間の中で、実習園のスケジュールや保育内容等に合わせて以下の実習内容を履修する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①実習園の概要と1日の園生活の流れを把握する。</li> <li>②個々の子どもの心情理解に努め、信頼関係を構築する。</li> <li>③遊びや園生活の中で積極的に子どもとかわりコミュニケーションを図る。</li> <li>④参与観察や子どもとの関わりを通して子どもの実態把握や遊びや活動に関する子どものニーズを汲み取る。</li> <li>⑤クラス集団を対象したメンター教員の保育の工夫や配慮の意図を考察する。</li> <li>⑥保育環境構成の意図や工夫を学ぶ</li> <li>⑦保育のねらいを立て指導計画を立案し指導案を記述する。</li> <li>⑧指導計画に沿って準備とシミュレーションを入念に取り組む。</li> <li>⑨指導計画をもとに設定保育や全日実習に取り組む。</li> <li>⑩保育実践について振り返り、反省会等でメンター教員からの指導、助言、評価を受ける。</li> <li>⑪教育活動の終了後に行う教育活動（家庭や地域との連携、子育て支援活動など）について、メンター教員の指導のもと可能な限り取り組み、指導や助言を受ける。</li> </ol> <p><b>【事前学習】</b> 実習園との事前打ち合わせ・オリエンテーションで提示された事前準備や課題、練習をする。（絵本の選定、手遊び・歌遊びの練習、ピアノの練習など） 3時間</p> <p><b>【事後学習】</b> 実習中毎日、日誌の記入とともに、実習の振り返り、責任保育のブラッシュアップする。1時間</p>	

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育インターンシップ		難波 章人		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2320		
		担当教員	青沼典子 谷川裕子 難波章人					

  

幼	科目	教育実践に関する科目		選択必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育実習		
保	系列			

  

<b>【キーワード】</b>	<b>【概要】</b>
1 教育実習	子どもとのかかわりやメンター教諭のサポートとして保育に参加することを軸にしながら、園行事や預かり保育といった通常の短期間の実習では体験できない保育や教員同士の連携作業、園の業務に可能な限り参加していく。そして幅広く幼稚園の役割と幼稚園教諭の業務内容を実践的な体験から学ぶ。また、長期に渡る子どもの観察から成長と発達の変化の有り様を理解し、そこに寄り添う幼稚園教諭の仕事のやりがいを実感する。
2 幼稚園	
3 幼稚園教諭	
4 インターンシップ	
5 保育実践	

  

**【到達目標】**

- 園の業務に参加して幼稚園の役割を理解することができる。
- 一教員としての気持ちを持って幼稚園の業務に参加することができる。
- 保育時間外の多岐にわたる準備、打ち合わせ等や教員間の報告・連絡・相談の重要性をより深く理解することができる。

  

<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>	関連性		
<b>【知識・理解・技能】</b>			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○		
<b>【思考・判断・表現】</b>			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
<b>【関心・意欲・態度】</b>			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○		
<b>【成績評価の方法】</b>			
成績指標	実習園の評価	実習に対する取り組み	合計
評価割合 (%)	80%	20%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	実習生としての自覚を持ち、自己課題解決に努める姿が実習園からも評価されている。					
A	実習生としての意識を持ち、学びに繋げる努力が実習園から評価されている。					
B	実習生としての態度で臨むことができるが、学びを得るための積極性に欠けた評価となっている。					
C	実習生として参加することができ、最低限の知識を習得できた。					
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
実習園の指示に従う。						
【教科書】						
『実習の手引き』（純真短期大学こども学科） 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）						
【参考書・参考資料等】						
『保育指導案大百科事典』 開仁志編著（一藝社） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）						
【関連科目】						
「教育実習指導」 「教育実習Ⅰ」						
【受講心得】						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業倫理を守り、子どもの人権を尊重することを心がける。</li> <li>・実習現場である幼稚園の教育方針を理解し、実習生といえどもその園の「一教員」として子どもの前に立つ自覚を持つ。</li> <li>・謙虚な態度をもって実習園のメンター教員の指導・助言を受け、学びを得る努力をする。</li> </ul>						
【備考】						
幼稚園教諭免許 選択必修						
【学習項目】						
<p>※実習期間の中で、実習園のスケジュールや保育内容等に合わせて以下の実習内容を履修する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①実習園の概要と1日の園生活の流れを把握する。</li> <li>②個々の子どもの心情理解に努め、信頼関係を構築する。</li> <li>③遊びや園生活の中で積極的に子どもとかわりコミュニケーションを図る。</li> <li>④参与観察や子どもとの関わりを通して子どもの実態把握や遊びや活動に関する子どものニーズを汲み取る。</li> <li>⑤クラス集団を対象したメンター教員の保育の工夫や配慮の意図を考察する。</li> <li>⑥保育環境構成の意図や工夫を学ぶ</li> <li>⑦保育のねらいを立て指導計画を立案し指導案を記述する。</li> <li>⑧指導計画に沿って準備とシミュレーションを入念に取り組む。</li> <li>⑨指導計画をもとに設定保育や全日実習に取り組む。</li> <li>⑩保育実践について振り返り、反省会等でメンター教員からの指導、助言、評価を受ける。</li> <li>⑪教育活動の終了後に行う教育活動（家庭や地域との連携、子育て支援活動など）について、メンター教員の指導のもと可能な限り取り組み、指導や助言を受ける。</li> </ol> <p>【事前学習】 実習園との事前打ち合わせ・オリエンテーションで提示された事前準備や課題、練習をする。（業務の準備、絵本の選定、手遊び・歌遊びの練習、ピアノの練習など） 3時間</p> <p>【事後学習】 インターンシップ中、本学指導教員に中間報告を行う。また、終了後、出勤簿及び活動記録日誌を指導教員に提出・報告を行い、実習のまとめとする。3時間</p>						

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
レクリエーション実技		春田 智明	2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング	CE2402	
		担当教員	春田 智明				
幼	科目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列						
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>					
1	コミュニケーション	既習のレクリエーション理論や方法をふまえて、対象者や目的に合わせたレクリエーションを企画・展開できるレクリエーションの活動や支援について、現場を想定しながら実技や演習を通して学ぶ。					
2	ホスピタリティー						
3	健康づくり						
4	遊び						
5	楽しさ						
<b>【到達目標】</b>		1. レクリエーション支援の方法と活動の展開方法を身に付けることができる。 2. レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を身に付けることができる。 3. 対象者や活動現場を想定したレクリエーション支援を実施し、評価し、改善することができる。					
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>							関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○
<b>【思考・判断・表現】</b>							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							○
<b>【関心・意欲・態度】</b>							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							○
<b>【成績評価の方法】</b>							
成績指標	定期試験		受講態度等			合計	
評価割合 (%)	80		20			100	
<b>【成績評価の基準】</b>							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	実技内容を十分に理解しており、支援に必要な内容を的確に実施できる。						
A	実技内容を理解しており、支援に必要な内容を十分に実施できる						
B	実技内容を理解しているが、支援に必要な内容を実施できる。						
C	実技内容の概要を理解しており、支援に対して最低限の評価。						

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b>		
試験終了後、模範解答とコメントを返答する。		
<b>【教科書】</b>		
適宜資料配布・紹介する。		
<b>【参考書・参考資料等】</b>		
『楽しさをおとした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』 日本レクリエーション協会		
<b>【関連科目】</b>		
「レクリエーション理論」「レクリエーション実技」「子どもと表現」		
<b>【受講心得】</b>		
本学の学生としてふさわしい受講姿勢にて。		
<b>【備考】</b>		
レクリエーション・インストラクター課程必修		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 信頼関係づくりの方法と ホスピタリティ①		<学習内容>ホスピタリティートレーニング
2 信頼関係づくりの方法と ホスピタリティ②		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
3 良好な集団作りの方法と アイスブレイキング①		<学習内容>集団がまとまる仕組みを学ぶ
4 良好な集団作りの方法と アイスブレイキング②		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
5 自主的、主体的に楽しむ力を 高める展開方法①		<学習内容>複数回の成功体験を楽しむ
6 自主的、主体的に楽しむ力を 高める展開方法②		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）

7	レクリエーション支援のためのプログラムと活動の習得①		<p>&lt;学習内容&gt;プログラム計画</p> <p>&lt;事前学習&gt;テキストに目を通しておくこと (1時間)</p>
8	レクリエーション支援のためのプログラムと活動の習得②		<p>&lt;事後学習&gt;生活の場での実践 (各々の時間)</p>
9	レクリエーション支援のためのプログラムと活動の習得③		<p>&lt;学習内容&gt;</p> <p>&lt;事前学習&gt;テキストに目を通しておくこと (1時間)</p>
10	レクリエーション支援の実施①		<p>&lt;事後学習&gt;生活の場での実践 (各々の時間)</p>
11	レクリエーション支援の実施②		<p>&lt;学習内容&gt;プログラムの実施・振り返り</p> <p>&lt;事前学習&gt;テキストに目を通しておくこと (1時間)</p>
12	レクリエーション支援の実施③		<p>&lt;事後学習&gt;生活の場での実践 (各々の時間)</p>
13	レクリエーション支援の実施④		<p>&lt;学習内容&gt;プログラムの実施・振り返り</p> <p>&lt;事前学習&gt;テキストに目を通しておくこと (1時間)</p>
14	レクリエーション支援の実施⑤		<p>&lt;事後学習&gt;生活の場での実践 (各々の時間)</p>
15	レクリエーション支援の実施⑥		<p>&lt;学習内容&gt;プログラムの総括</p> <p>&lt;事前学習&gt;テキストに目を通しておくこと (1時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;生活の場での実践 (各々の時間)</p>

1 6	定期試験		
-----	------	--	--

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
レクリエーション実習		春田 智明	1・2	通年	実習	選択	1
		担当形態	複数教員		ナンバリング	CE1102	
		担当教員	春田智明・豊辻晴香				
幼	科目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列						
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>					
1	レクリエーション支援	<p>これまでに習得した知識もとに、レクリエーションの現場実習を通して具体的な実践・応用方法を学びながら、心の元気づくりを支援できるレクリエーション・インストラクターを目指す。なお、回数と時間数が定められた2種類のレクリエーション実習の両方に取り組む必要がある。</p>					
2	現場実習						
3	レクリエーション事業						
4	ニーズ						
5	心の元気づくり						
<b>【到達目標】</b>		<p>1. 活動現場で実際にレクリエーション支援を行うことで、これまでの学習成果を実践力として定着することができる。</p> <p>2. 対象者の主体性や協調性を引き出しつつ、レクリエーション支援の準備、展開、評価することができる。</p> <p>3. さまざまな立場でレクリエーション支援にかかわることで、ニーズや活用法を理解することができる。</p>					
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>							関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○
<b>【思考・判断・表現】</b>							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							○
<b>【関心・意欲・態度】</b>							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							
<b>【成績評価の方法】</b>							
成績指標	受講態度		提出物			合計	
評価割合 (%)	80		20			100	
<b>【成績評価の基準】</b>							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	講義内容を十分に理解しており、学んだ知識や技術を適切に活かしながら実践できる。						
A	講義内容を理解しており、学んだ知識や技術を十分に活かしながら実践できる。						
B	講義内容を総じて理解しているが、学んだ知識や技術を活かさきれていない実践である。						
C	講義内容の概要を理解しており、学んだ知識や技術が最低限みられる実践である。						

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b>	
取り組み姿勢やレポートの内容等について、口頭またはコメントで伝える。	
<b>【教科書】</b>	
『楽しさをおとした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』 日本レクリエーション協会	
<b>【参考書・参考資料等】</b>	
適宜資料配布・紹介する。	
<b>【関連科目】</b>	
「レクリエーション理論」「レクリエーション実技」「子どもと表現」	
<b>【受講心得】</b>	
レクリエーション活動について、日頃より関心をもち、情報収集に努めること。 本学の学生としてふさわしい受講姿勢にて。	
<b>【備考】</b>	
レクリエーション・インストラクター資格課程必修	
<b>【学習項目】</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
<b>&lt;学習内容&gt;</b>	
当授業は、下記の2種類のレクリエーション実習に対し、それぞれの規定回数および時間数、取り組む必要がある。また、スタッフ参加実習では実習後の「課題レポート」を作成・提出しなければならない。	
①スタッフ参加実習（1回以上／総計6時間以上）	
レクリエーション支援に関する実習に「運営スタッフ」としてかわり、プログラムの計画から実施、評価まで一連の流れを経験することで実践力を身に付ける。当実習は、終了後に必ず課題レポートを作成し提出する。	
②事業参加実習（2回以上／総計3時間以上）	
レクリエーション支援を行う現場に「参加者」としてかわることで、地域において実施されているレクリエーション活動のニーズを理解し、技術や活動法の知識を深める。	
<b>&lt;事前学習&gt;</b> それぞれの実習内容に関して事前に調べ学習をしておくこと。（1.0時間）	
<b>&lt;事後学習&gt;</b> 授業で習得したことを日常でチャレンジしてみること。（1.0時間）	
スタッフ参加実習後は、既定のレポートを作成・提出すること。（1.5時間）	

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子ども家庭支援論		砥上 あゆみ		2	後期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE2201		
		担当教員	砥上 あゆみ					
幼	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系列	保育の対象の理解に関する科目						必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解し、保育士の専門性を生かした家庭支援の意義・目的について学習する。また、保育士として求められる基本や役割について理解を深める。</li> <li>・子育て家庭の福祉を図るための法制度や社会資源、他機関との連携等についても知識を深める。</li> <li>・専門的な知識や保育技術をいかした家庭支援の事例にふれ、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援を実践するための力を身につけることを目的とする。</li> </ul>						
2	子育て							
3	家庭支援							
4	保育の専門性							
5								
<b>【到達目標】</b>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育て家庭の現状や課題を踏まえ、保育士の専門性を生かした家庭支援の意義、役割を理解できる。</li> <li>2. 子育て支援施策や子育て家庭の福祉を図る社会資源について、説明することができる。</li> <li>3. 保育者としての専門的な視点で子育て支援を捉え、支援の実際について考えることができる。</li> </ol>						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>		関連性						
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○						
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○						
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	試験	課題提出	受講態度	合計				
評価割合 (%)	40%	20%	40%	100				
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。							
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。							
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。							
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。							

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 提出された課題等については、返却を行い、要点を確認する。		
<b>【教科書】</b> 井村圭壯・今井慶宗編著『保育と子ども家庭支援論』勁草書房		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 大豆生田啓友『ちょっとした言葉かけで変わる保護者支援の新ルール10の原則』 メイト 亀崎美沙子『保育の専門性を生かした子育て支援「子どもの最善の利益」をめざして』		
<b>【関連科目】</b> 「子ども家庭支援の心理学」		
<b>【受講心得】</b> 現代の家庭・家族の抱える諸問題について真剣に考えてほしい。 専門職である保育者がおこなう子育て家庭支援の役割を理解し実践につながるように、主体的に臨んでほしい		
<b>【備考】</b> 保育士資格必修		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 子ども家庭支援の意義と必要性		子ども家庭への支援の必要性とされている背景について知識を深め、その意義について理解する。 事前学習（0.5時間） シラバスを読み、わからない言葉は意味を調べておく。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
2 子ども家庭支援の目的と機能		子ども家庭支援の目的を理解し、保育所の機能や役割を考えていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
3 保育士による子ども家庭支援の意義と基本①		保育の専門性をいかした保育士による子ども家庭支援の基本について、日常の保育や具体的な事例を通して理解を深めていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
4 保育士による子ども家庭支援の意義と基本②		保育の専門性をいかした保育士による子ども家庭支援の基本について、日常の保育や具体的な事例を通して理解を深めていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
5 保育士による子ども家庭支援の意義と基本③		保育の専門性をいかした保育士による子ども家庭支援の基本について、日常の保育や具体的な事例を通して理解を深めていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
6 保育士に求められる基本的態度		保育士に求められる基本的態度について学ぶ。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。

7	家庭の状況に応じた支援	多様化する家族の状況とともに、支援のニーズも多岐にわたっている現状を理解し、支援の在り方について考えていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
8	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	地域や関係機関との連携・協力が求められているその背景を理解し、保育士としての役割を考えていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
9	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	子育て家庭の福祉を図る社会資源（公的・私的）の役割について学ぶ。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
10	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	これまでの子育て支援施策・次世代育成支援施策にふれ、歴史的変遷や課題への理解を深めていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
11	子育て家庭への支援の実際①	保育所等を利用する子ども家庭への支援について学ぶ。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
12	子育て家庭への支援の実際②	地域の子育て家庭への支援を担う保育所等の実践について、その役割を理解する。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
13	特別な支援や配慮を要する家庭支援①	特別な支援や配慮を要する家庭への支援の基本について学ぶ。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
14	特別な支援や配慮を要する家庭支援②	特別な支援や配慮を要する家庭への支援について、具体的に考える。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
15	子ども家庭支援に関する現状と課題	子ども家庭支援に関する現状と課題をふまえ、保育者の専門性をいかした子育て家庭支援について、考えていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を読んでおくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
16	定期試験	

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（環境）		田尻 由美子		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2303	
		担当教員	田尻 由美子					
幼	科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目						必修
	施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）						
保	系列	保育の内容・方法に関する科目						必修
【キーワード】		【概要】						
1	環境	領域「環境」の指導に関連する子どもを取り巻く環境や子どもと環境との関わりについて、「子どもと環境」で学んだ知識や感性を踏まえ、子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定し実践する力を身につける。また、子どもと環境の関わり方やそこから何を思考し発見しているのか具体的な姿や場面として理解するために、実際の保育場面を映した視聴覚教材やパワーポイント・ペープサート・パネルシアター等の教材を多用しながら、授業を展開する。						
2	自然							
3	物的環境							
4	数量							
5	標識・文字							
【到達目標】		1. 子どもの生活や遊びと保育内容について理解し、領域「環境」のねらい、内容について全体構造を理解する 2. 実際の保育場面や事例を通して、子どもが経験している内容や学びの発達の姿を理解できるようにする 3. 具体的な保育を想定した指導案を作成、模擬保育を行い、振り返りを通して保育を改善する視点を身につける						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	課題・レポート・受講態度等			定期試験			合計	
評価割合（％）	40			60			100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E		F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績		受験資格なし（出席回数不足）	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0		0	
評語	評価の基準							
S	演習内容を十分に理解しており、課題等に対して的確に取り組み、設問にも正確に解答できる。							
A	演習内容を理解しており、課題等に対して十分に取り組み、設問にもほぼ正確に解答できる。。							
B	演習内容を総じて理解しているが、課題等に対してやや不十分で、設問に不正確な解答が見られる。							
C	演習内容の概要を理解しているが、課題等や設問に対しては最低限の評価に留まる。							

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b>	
定期試験結果：到達目標に達しなかった具体的項目と評価結果について、個別に開示し解説する。 授業中の小テスト・レポート等：すべてについて、適宜、授業中に返却し解説する。	
<b>【テキスト】</b>	
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館	
<b>【参考書・参考資料等】</b>	
『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 授業中に随時参考図書・絵本等を紹介する。また、適宜、資料を配布する。	
<b>【関連科目】</b>	
「子どもと環境」 「保育内容総論」 「保育内容全般」	
<b>【受講心得】</b>	
指導案作成、模擬保育、事例検討などでICT利活用を積極的に試みる。 毎回、授業内容や配布資料を整理しノートにまとめるなど、日常の学習を大切にする。 実習や保育現場で応用できるように学習する。 幼稚園教育要領、保育所保育指針を熟読する。	
<b>【備考】</b>	
幼稚園教諭免許必修、保育士資格必修	
<b>【学習項目】</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 幼児教育の基本と保育内容「環境」とは	学習内容 授業概要、受講の心得（到達目標、受講態度、評価など）についてシラバスを中心に解説する 前期科目『子どもと環境』を復習し領域のねらいや内容を確認する 事前学習 シラバスを読んでくる 幼稚園教育要領の領域環境のねらいを読んでくる（1時間） 事後学習 内容①～⑩のポイントが説明できるように振り返りをしておく（1時間）
2 幼児期にふさわしい環境・環境構成の実際	学習内容 教育課程や保育計画、長期・中期・短期指導計画について意義・意味を確認する 具体的指導計画（部分保育指導案）を基に環境構成の実際について考える 事前学習 関連教科や実習等で学んだ指導計画について復習してくる（1時間） 事後学習 学習内容を振り返り、資料等を整理してノートにまとめておく（1時間）
3 「環境」のねらい、内容の展開の実際①（園内）	学習内容 部分保育指導案（園内）の例を基に、保育の流れと保育者としての役割（環境の構成や援助）を考える 幼稚園教育要領の内容①～⑩について概要を振り返り留意点を再確認する 事前学習 幼稚園教育要領の内容①～⑩を読んでおく（1時間） 事後学習 学習内容を振り返り、資料等を整理してノートにまとめておく（1時間）
4 「環境」のねらい、内容の展開の実際②（園外）	学習内容 部分保育指導案（園外）の例を基に、保育の流れと保育者としての役割（環境の構成や援助）を考える 部分保育指導案作成と模擬保育に向けてグループ分けと担当テーマを決定する 事前学習 担当する部分保育指導案を構想しておく（0.5時間） 事後学習 部分保育指導案を完成させて提出できるようにしておく（1時間）
5 自然に親しみ、植物に触れる保育①（計画立案）	学習内容 自然に親しんだり季節の変化に気付くような保育について意義と留意点を考える 自然に親しむ保育の指導案を立案する 事前学習 自然に親しむ保育の部分保育指導案を構想しておく（0.5時間） 事後学習 自然に親しむ保育の部分保育指導案を完成させ提出できるようにしておく（1時間）
6 自然に親しみ、植物に触れる保育②（栽培実践）	学習内容 植物を大切に育てる保育活動などを通して命の大切さを伝えたり、生き物に関心を深めたりする保育について、意義と留意点を考える 自然に親しむ保育の模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点を全員で共有する 事前学習 模擬保育の準備をしておく（1時間） 事後学習 生き物や飼育・栽培、命に触れる保育について部分保育指導案を作成して提出できるようにしておく（1時間）
7 自然に親しみ、植物に触れる保育③（考察・改善・振り返り）	学習内容 飼育・栽培、命に触れる保育などに関する模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを全員で共有する 事前学習 模擬保育の準備を行っておく（1時間） 事後学習 学習内容を振り返り重要な点などをまとめておく（0.5時間）

8	標識、文字等に関わる保育の実際(パブリック等視覚教材の活用)	<p>学習内容 標識、文字への関心を高める保育の在り方を考え、特に視覚的教材を使うなどの工夫をした保育の実際を学ぶ 模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを共有する</p> <p>事前学習 模擬保育の準備を行っておく(1時間)</p> <p>事後学習 学習内容を振り返り重要な点などをまとめておく(0.5時間)</p>
9	数量、図形等に関わる保育の実際(ペーパー・パネルターの活用)	<p>学習内容 数量・図形に関する概念の形成を促す保育の在り方を考え、児童文化財などを使った保育の実際を学ぶ 数量・図形に関する保育の模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを共有する</p> <p>事前学習 模擬保育の準備を行っておく(1時間)</p> <p>事後学習 学習内容を振り返り重要な点などをまとめておく(0.5時間)</p>
10	身近な情報、日本文化や異文化に触れる活動とは	<p>学習内容 幼児期に伝統文化に触れ、異文化理解に資する保育の在り方、また、情報や社会に関心を持つような保育の在り方について考え、児童文化財などを使った保育の実際を学ぶ 伝統文化・情報などに関する模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを共有する</p> <p>事前学習 模擬保育の準備を行っておく(1時間)</p> <p>事後学習 学習内容を振り返り重要な点などをまとめておく(0.5時間)</p>
11	身近な素材や自然物を活用した保育の実際①(計画立案)	<p>学習内容 身近な素材にかかわる保育、自然物を活用した保育について、環境の構成や保育者の援助、留意点などを考える 児童文化財や教材などを使って保育が豊かになるように工夫した指導案を立案する</p> <p>事前学習 児童文化財や教材など豊かな保育を展開する方法を考えておく(0.5時間)</p> <p>事後学習 教材研究や見本の作成などを行って模擬保育の準備をしておく(1時間)</p>
12	身近な素材や自然物を活用した保育の実際②(模擬保育)	<p>学習内容 身近な素材にかかわる保育について模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを共有する</p> <p>事前学習 教材研究や見本の作成など模擬保育の準備を行う(1時間)</p> <p>事後学習 学習内容を振り返り重要な点などをまとめておく(0.5時間)</p>
13	身近な素材や自然物を活用した保育の実際③(模擬保育)	<p>学習内容 自然物にかかわる保育について模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを共有する</p> <p>事前学習 教材の準備と模擬保育の準備をしておく(1時間)</p> <p>事後学習 学習内容を振り返り重要な点などをまとめておく(0.5時間)</p>
14	身近な素材や自然物を活用した保育の実際④(考察・改善・振り返り)	<p>学習内容 自然物にかかわる保育について模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点などを共有する また、自己の保育を振り返り、今後の課題をまとめる</p> <p>事前学習 教材の準備と模擬保育の準備をしておく(1時間)</p> <p>事後学習 学習内容を振り返り重要な点などをまとめておく(0.5時間)</p>
15	環境に関わる現代的課題(障がいのある幼児に配慮した指導含む)授業の振り返りとまとめ	<p>学習内容 領域環境に関わる現代的課題に着目して、具体的な援助や環境の構成の在り方について考える</p> <p>1回～14回の授業を振り返り補足やまとめを行う</p> <p>事前学習 資料の整理やノートのまとめを行い、すべてを持参できるように準備しておく(1時間)</p> <p>事後学習 授業内容を復習し概要を説明できるようになっておく、また、定期試験に対応できるように準備しておく(1時間)</p>
16	定期試験	

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（言葉）		青沼 典子	2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング	CE2304	
		担当教員	青沼 典子（実務家）				

  

幼	科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
保	系列	保育の内容・方法に関する科目		必修

  

<b>【キーワード】</b>	<b>【概要】</b>
1 コミュニケーション	人間にとって大切な言葉の機能と教育目標との関係性及び保育内容「言葉」のねらいについて体験的なワークを交えて学び、保育内容「言葉」の発達に関する基本的な事項の理解を探ります。また、絵本を中心に物語性やイメージを大切にした保育内容とその指導計画及び展開について演習を取り入れながら実践的に学習します。また、小学校との連携に関する基本的な考えについて学びを深めます。
2 絵本	
3 分析力	
4 児童文化財	
5 総合 活動	

  

<b>【到達目標】</b>
1. 子どもの言葉の発達過程を理解し、その育ちの中での周囲の関わり方の重要性を説明することが出来る。
2. 保育の場面に於いて保育者がどのような言葉や姿勢で関われば良いか判断出来る。
3. 言葉によってイメージを共有し、表現する力を育てる保育内容を考え指導できる。

  

<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>	関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
<b>【思考・判断・表現】</b>	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
<b>【関心・意欲・態度】</b>	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

  

<b>【成績評価の方法】</b>				
成績指標	定期テスト	課題、提出物・受講態度、	協調性	合計
評価割合（％）	40	30	30	100

  

<b>【成績評価の基準】</b>						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	30%	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準	
S	講義、演習の目的を理解した上で課題に真摯に取り組む姿があり、課題提出物の内容が十分である	
A	講義、演習の目的を理解して、課題に取り組む姿があり、課題、提出物の内容がおおむね十分である	
B	講義、演習課題に意欲的に取り組む姿があり、課題、提出物の内容が本人の力量相応である。	
C	講義、演習課題に取り組む姿はあるが、課題、提出物が最低限の内容に留まっている。	
<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 小テストは模範解答、コメント添付。解説をし、やり直しをさせていく		
<b>【教科書】</b> 『事例で学ぶ保育内容 領域 言葉』 萌文書林		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 『保育と絵本』 エイデル研究所		
<b>【関連科目】</b> 「子どもと言葉」「子どもの心理学」 保育関連科目全般		
<b>【受講心得】</b> 言葉の成り立ち、子どもへの関わりが言葉、心を育てることを理解し受講する。協調性を持って演習に臨む		
<b>【備考】</b> 卒業必修科目 幼保資格必修		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 オリエンテーション（人と言葉）		<b>【学習内容】</b> 保育所保育指針を持参させる。言葉のねらい、ねらいと内容を読む。1年生の時の子どもと言葉で学んだことを振り返る。10の姿と言葉のねらいに沿った学習を意識づける。 (事前学習) シラバスを読んできておく。言葉の授業に対し、大まかにわかっておく。(30分) (事後学習) 本日の学びの復習(30分)
2 言語文化財とは		<b>【学習内容】</b> 領域言葉のねらいを書き取りする。3歳未満児、3歳以上児のねらいの違いを意識づける。言語文化財について紹介する。 (事前学習) 保育指針言葉のねらいを読む。(30分) (事後学習) 内容を書き加える(30分)
3 絵本の基本を学ぶ		<b>【学習内容】</b> 絵本の基本的な扱い方、読む前の準備、読み方など、を学ばせる。子どもにとっての言葉を楽しく育てる一つとしてのであそびを提案し、クラスで集めて本を作る。グループごとに調べ活動 (事前学習) 指定されたテキストの章を読む(30分) (事後学習) てあそび調べ(30分)
4 絵本からの展開①		<b>【学習内容】</b> 言葉の出にくさを抱えた子について、原因、対応について 後半はてあそびブックづくり (事前学習) てあそび練習、指定されたテキストの章を読む。(30分) (事後学習) てあそび練習(30分)
5 絵本からの展開②		<b>【学習内容】</b> てあそびからの展開、個人作品作り、卒業後、現場に持って行けるような作品にしていく (事前学習) 作品の目安を付ける(30分) (事後学習) 作品作り続き(30分)
6 ことば遊び作り		<b>【学習内容】</b> 作品作り仕上げ (事前学習) 仕上げていけるようなめど作り(30分) (事後学習) 練習(30分)

7	絵本の分析①		【学習内容】 作品、てあそび発表 (事前学習) 練習 (30分) (事後学習) 感想、反省レポート、絵本の分析に向けて前もって読んでおく本を伝える (30分)
8	絵本の分析②		【学習内容】 小テスト。1冊の絵本をじっくり読み込み、作者の思いや糸を考える。文や絵からきづきを深める。(グループ活動) 今後の読み込みに繋げる。 (事前学習) 小テストに関して (30分) (事後学習)、絵本の読み込み (30分)
9	言語文化財、素話の実際、その他の言語文化財		【学習内容】 小テスト解説、コメント、やり直し。絵本の分析についての解説、読み込みの大切さを学ぶ、意見交換 (事前学習) 絵本を何回も読み、読み込みを深める。(30分) (事後学習) まとめのレポート (30分)
10	あそびへの展開、作ってみよう①		【学習内容】 クラス全体での劇活動について企画、配役決め、準備など (事前学習) まとめレポート (30分) (事後学習) 今後の見通し、グループで (30分)
11	あそびへの展開、作ってみよう②		【学習内容】 制作準備、練習、手直し (事前学習) 下準備をする (30分) (事後学習) 手直しなど (30分)
12	あそびへの展開、作ってみよう③		【学習内容】 準備、練習、手直し合同練習。 (事前学習) 制作準備、練習 (30分) (事後学習) 発表に向けての反省や、準備 (30分)
13	遊びからの展開、発表		【学習内容】 保育園の園児を招待して、劇の発表会をする。子どもの前で全力の発表をする。 (事前学習) 舞台設定を協力して行う。(30分) (事後学習) 振り返り、レポート提出 (30分)
14	実践についての振り返り、フィードバック		【学習内容】 実践についてのふりかえり、保育園からの感想、助言、教員からのフィードバック、自分たちの反省と次への課題 (事前学習) レポートを書く。(30分) (事後学習) レポートを仕上げる。(30分)
15	「言葉」に託す、「言葉」を渡す。領域「言葉」について振り返り、まとめ		【学習内容】 劇についてのまとめ、フィードバック 領域「言葉」についての振り返り、まとめ (事前学習) テキストの指定された章を読む (30分) (事後学習) 振り返りのまとめをする。(30分)

16	定期テスト		
----	-------	--	--

**【実務家教員】**

フリガナ	アオヌマ ノリコ	こども学科 教授
氏 名	青沼 典子	

実 務 経 験

**【実務経験】**

幼稚園教諭としての現場経験、また、主事職（教頭）として、幼稚園における実習生の指導経験、保育心理士や保育アドバイザーの資格を活かし、保育実践を想定した演習や絵本の読み聞かせ等、保育・教育者としての技術の習得、向上を目指した授業を行っている。

**【実務経験を生かした授業科目】**

「教育実習指導」、「子どもと言葉」、「子どもの心理学」、「保育内容（言葉）」、「保育・教職実践演習」

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（音楽表現）		豊辻 晴香	2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング	CE2305	
		担当教員	豊辻 晴香				
幼	科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目					必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法					
保	系列	保育の内容・方法に関する科目					必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>					
1	音楽表現活動	子どもの年齢や発達段階に応じた音楽活動（合奏、音遊び、音楽表現など）の保育のねらいや内容、指導について学ぶ。また、音楽活動以外の場面における音楽の効果的な使い方を知る一助として、物語のイメージに合う歌や音楽を選択し、物語の展開に合わせて発表する。					
2	合奏						
3	音遊び						
4	音楽物語						
5	指導計画						
<b>【到達目標】</b>		1. 表現のねらい等を理解し、各年齢に応じた音楽表現活動について計画・指導することができる。 2. 子どもが発信する表現に気づき、受け止め、共感し、共有することができる。 3. 物語等における、子どもの想像力を高めるための効果的な音楽を組み立てることができる。					
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>							関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○
<b>【思考・判断・表現】</b>							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							○
<b>【関心・意欲・態度】</b>							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							
<b>【成績評価の方法】</b>							
成績指標	授業態度及び発表			課題（レポート・提出物）		合計	
評価割合（％）	80			20		100	
<b>【成績評価の基準】</b>							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	講義内容を十分に理解しており、学んだ知識や技術を適切に活かしながら保育実践できる。						
A	講義内容を理解しており、学んだ知識や技術を十分に活かしながら保育実践できる。						
B	講義内容を総じて理解しているが、学んだ知識や技術を活かしていけない保育実践である。						
C	講義内容の概要を理解しており、学んだ知識や技術が最低限みられる保育実践である。						

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b>		
<p>取り組み姿勢やレポートの内容等について、口頭またはコメントで伝える。 発表や実践に関しては、終了後にその都度口頭で伝える。</p>		
<b>【教科書】</b>		
『ユニバーサルデザインの音楽表現』 星山麻木（編著） 萌文書林 / その他、適時資料配布		
<b>【参考書・参考資料等】</b>		
『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』 文部科学省 フレーベル館		
『保育所保育指針解説〈平成30年3月〉』 厚生労働省 フレーベル館		
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年4月〉』 内閣府他 フレーベル館		
『2～5歳児のやさしい・楽しい器楽合奏集』 安藤真裕子・泉まりこ 編曲 ナツメ社		
<b>【関連科目】</b>		
「子どもと表現」「保育内容全般」「音楽表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」		
<b>【受講心得】</b>		
日頃より子どもや音楽について関心を持ち、情報収集に努めること。 状況に応じて学習順番等が変更する場合がある。		
<b>【備考】</b>		
保育士課程必修、幼稚園教諭課程必修		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 オリエンテーションおよび 情報機器の活用法		<p>&lt;学習内容&gt;講義要項（シラバス）の内容、活動メンバーの把握、保育実践スケジュール及び注意事項について確認する。また活動に有益な情報機器について学ぶ。 &lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。（0.5時間） &lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（0.5時間）</p>
2 子どもの発達と表現領域のねらい・内容		<p>&lt;学習内容&gt;各年齢の子どもの発達を把握したうえで、要領・指針の「表現」領域の保育のねらいや内容について理解する。教科書P.30～42 &lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間） &lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）</p>
3 器楽合奏活動の立案と指導①（未満児）		<p>&lt;学習内容&gt;保育現場で扱う楽曲を合奏し、発達段階に適した楽器や楽曲編成などについて学ぶ。そして各担当年齢の合奏活動を計画する。 &lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間） &lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）</p>
4 器楽合奏活動の立案と指導②（未満児）		<p>&lt;学習内容&gt;未満児の合奏活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。 &lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間） &lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）</p>
5 器楽合奏活動の立案と指導③（以上児）		<p>&lt;学習内容&gt;以上児の合奏活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。 &lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間） &lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）</p>
6 器楽合奏活動の立案と指導④（以上児）		<p>&lt;学習内容&gt;以上児の合奏活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について検討する。 &lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間） &lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）</p>

7	器楽合奏活動の立案と指導⑤（以上児）	<p>&lt;学習内容&gt;以上児の合奏活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）</p>
8	音楽表現活動の計画と実践①（未満児）	<p>&lt;学習内容&gt;保育現場で扱う音遊びや音楽表現活動を体験することで、音楽を通じた表現方法の可能性について学ぶ。そして各担当年齢の音楽表現活動を計画する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）</p>
9	音楽表現活動の計画と実践②（未満児）	<p>&lt;学習内容&gt;未満児の音楽表現活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）</p>
10	音楽表現活動の計画と実践③（以上児）	<p>&lt;学習内容&gt;3歳児の音楽表現活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）</p>
11	音楽表現活動の計画と実践④（以上児）	<p>&lt;学習内容&gt;4歳児の音楽表現活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について検討する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）</p>
12	音楽表現活動の計画と実践⑤（以上児）	<p>&lt;学習内容&gt;5歳児の音楽表現活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）</p>
13	音楽物語の計画と発表①	<p>&lt;学習内容&gt;選択した絵本または紙芝居に、聞き手の想像を膨らませるような効果音やBGMを自ら考え、披露する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）</p>
14	音楽物語の計画と発表②	<p>&lt;学習内容&gt;選択した絵本または紙芝居に、聞き手の想像を膨らませるような効果音やBGMを自ら考え、披露する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（1時間）</p>
15	まとめ	<p>&lt;学習内容&gt;全授業の内容のまとめを行う。</p> <p>&lt;事前学習&gt;これまでの実践や発表の学びや成果などをまとめておくこと。（0.5時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;学びなどを「事後レポート」にまとめて提出する。（1.0時間）</p>

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
特別支援教育Ⅱ		菅原 亜紀		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE2306		
		担当教員	菅原 亜紀					
幼	科目	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列	保育の内容・方法に関する科目						必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	特別支援	障害のある子ども、特別な配慮を必要とする子どものための保育について学びます。個別の支援だけでなく、子ども同士のかかわりや、保護者支援、関係機関との連携など、さまざまな具体的な支援について考えていきます。						
2	障害							
3	虐待							
4	保育							
5	発達							
<b>【到達目標】</b>		1. 障害児その他特別な配慮を必要とする子どもの保育における計画の作成や、個別支援および保育実践について考えることができる。 2. 障害児その他特別な配慮を必要とする子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解できる。 3. 障害児その他特別な配慮を必要とする子どもの保育に関する現状と課題について理解できる。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>		関連性						
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○						
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○						
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○						
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	小テスト		提出物および受講態度			合計		
評価割合 (%)	60		40			100		
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準	
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。	
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。	
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。	
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。	
<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 小テストに関しては、授業内で解説を行う。		
<b>【教科書】</b> 適宜プリント、資料を配布します。		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義の中で紹介します。		
<b>【関連科目】</b> 「特別支援教育Ⅰ」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」「社会福祉」		
<b>【受講心得】</b> 全員が安心して講義を受けられるよう、それぞれが意識して受講すること		
<b>【備考】</b> 保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 障害をもって生まれるということ		<学習内容>授業の概要他、授業に関するオリエンテーションを行う。障害をもって生まれてきた子どもの映像をもとに、障害について考える。 <事前学習>シラバス（講義要項）に目をとおしておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
2 さまざまな方法で発達をみる		<学習内容>様々な発達検査を実際に手に取り、体験する。 <事前学習>子どもの発達について振り返っておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
3 発達の違いを理解する		<学習内容>子ども一人ひとりの発達の違いについて考える。また、発達課題について学ぶ。 <事前学習>プリントを確認しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
4 疑似体験をしてみよう		<学習内容>様々な障害についての疑似体験をとおして、支援について考える。 <事前学習>製作に必要なものを準備しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
5 発達障害の特性を理解する		<学習内容>発達障害の特性について事例等をとおして考える。 <事前学習>特別支援教育Ⅰを振り返っておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
6 ことばの支援		<学習内容>ことばの支援について考える。支援のための言葉かけや働きかけの技術について学ぶ。 <事前学習>こどもと言葉を振り返っておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）

7	心の支援	<p>&lt;学習内容&gt;子どもの育ちを支える心の支援について考える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;乳幼児期の心の発達について振り返っておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
8	発達を促す生活や遊び	<p>&lt;学習内容&gt;日々の生活や遊びの中で子どもの発達を促していくということについて学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;特別支援教育 I を振り返っておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
9	行動を読み解く 小テスト①	<p>&lt;学習内容&gt;子どもの行動の意味を考え、支援に結びつけていく。応用行動分析を中心に支援のポイントを考える。小テスト①を実施する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;これまでの授業を振り返っておく。(1時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
10	環境を調整する	<p>&lt;学習内容&gt;子どもの発達に応じた環境の作り方について学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;実習園での環境設定を思い出しておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
11	支援のための計画	<p>&lt;学習内容&gt;子どもを支援するための計画について考える。事例をもとに、個別の計画の作成の在り方や意義、実際の活用について学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;実習園での計画の在り方など思い出しておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
12	事例で考える①	<p>&lt;学習内容&gt;具体的な支援について事例をもとに考えていく。</p> <p>&lt;事前学習&gt;これまでの授業を振り返っておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
13	事例で考える② 小テスト②	<p>&lt;学習内容&gt;具体的な支援について事例をもとに考えていく。小テスト②を実施する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;これまでの授業を振り返っておく。(1時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
14	保護者や家族に対する支援	<p>&lt;学習内容&gt;保護者や家族への支援、障害受容などについて学ぶ。兄弟児への支援についても学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;特別支援教育 I を振り返っておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
15	関係機関や地域との連携 まとめ	<p>&lt;学習内容&gt;関係機関や地域、また小学校などとの連携について考える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;特別支援教育 I を振り返っておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数	
社会的養護Ⅱ		菅原 亜紀	2	後期	演習	選択	1	
		担当形態	単独		ナンバリング	CE2307		
		担当教員	菅原 亜紀					
幼	科目	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列	保育の内容・方法に関する科目					必修	
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	社会的養護	社会的養護において、子どもの最善の利益のためにどのような支援が行われているのかを学びます。 事例やグループワークをとおして様々な考え方にふれ、多角的に考える力や支援する力を身につけていきます。						
2	虐待							
3	里親							
4	施設							
5	子どもの権利							
<b>【到達目標】</b>								
1. 施設養護および家庭養護の実際について理解できる。								
2. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解することができる。								
3. 社会的養護の下で暮らす子どもたちへの理解を深めることができる。								
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>							関連性	
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							○	
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	提出物		取り組みの姿勢・受講態度			合計		
評価割合 (%)	60		40			100		
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準	
S	講義内容を十分に理解しており、レポートに必要な内容を的確に反映した考察をしている。	
A	講義内容を良く理解しており、レポートに必要な内容を十分に反映した考察をしている。	
B	講義内容を理解しており、レポートの内容と考察が記述されている。	
C	総じて講義内容を理解しており、レポートの内容を反映した考察が最低限記述されている。	
<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 毎回プリントを提出してもらい、次回に返却をすることで、授業の理解度の確認とフィードバックを行う。		
<b>【教科書】</b> 適宜プリント、資料を配布します。		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義の中で紹介します。		
<b>【関連科目】</b> 「社会的養護Ⅰ」「子ども家庭福祉」「社会福祉」「保育実習」		
<b>【受講心得】</b> 全員が安心して講義を受けられるよう、それぞれが意識して受講すること		
<b>【備考】</b> 保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 子どもの最善の利益		<p>&lt;学習内容&gt;授業の概要他、授業に関するオリエンテーションを行う。子どもとは？子どもの最善の利益とはどういふことなのかを具体的に考えられるよう事例をもとに学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;シラバス（講義要項）に目をとっておく。（30分）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）</p>
2 アドボカシー エンパワメント		<p>&lt;学習内容&gt;アドボカシーについて学び、社会的養護の下で暮らす子どもたちをアドボケートすることがイメージできるようにする。エンパワメント・アプローチとはどのようなことなのかを事例をとっておく。</p> <p>&lt;事前学習&gt;アドボカシー、エンパワメントという言葉について調べてみる。（30分）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）</p>
3 施設養護について		<p>&lt;学習内容&gt;施設養護の体系について理解するとともに、施設養護で暮らす子どもの実際を知る。</p> <p>&lt;事前学習&gt;社会的養護Ⅰで学んだ施設養護について振り返っておく。（30分）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）</p>
4 里親制度について①		<p>&lt;学習内容&gt;里親制度の概要、里親の種類について学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;里親について調べておく。（30分）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）</p>
5 里親制度について②		<p>&lt;学習内容&gt;里親制度の現状や国際比較、課題などについて学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;里親制度の課題とはどのようなことが考えられるかイメージしておく。（30分）</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）</p>

6	社会的養護の下で暮らす子どもたちとその背景にあるもの	<p>&lt;学習内容&gt;子どもの権利を守るための社会的養護の在り方について考えるとともに、子どもたちの背景にある家庭、社会について学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;子どもたちの背景にある家庭の問題などを調べてみる。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
7	ケースマネジメント 社会的養護におけるアセスメント	<p>&lt;学習内容&gt;社会的養護におけるケースマネジメントの在り方とアセスメントの視点について考える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;エンパワメントについて再度確認しておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
8	自立支援計画の作成	<p>&lt;学習内容&gt;自立支援計画の目的や策定の在り方などを学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;自立支援計画が子どもにとってどのような意味をもつのか考えてみる。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
9	日常生活の中での支援	<p>&lt;学習内容&gt;社会的養護の下で暮らす子どもにとっての日常生活とはどのような意味をもつのかを考える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;施設等での毎日の生活とはどのようなものなのか、社会的養護Ⅰを振り返っておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
10	治療的支援について 被虐待児の実際	<p>&lt;学習内容&gt;治療的な支援とはどのようなものなのか、被虐待児の実際の姿とはどのようなものなのかを学び、保育者としての関りを考える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;虐待について振り返っておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
11	社会的養護の下で暮らす子どもたちが自立するということ	<p>&lt;学習内容&gt;施設等を単立つ子どもたちの実際について考え、自立とはどのようなものなのか、どのような援助が必要なのかを考える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;あなたにとっての自立とは何でしょう？考えておきましょう。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
12	保育士の専門性 倫理と責務	<p>&lt;学習内容&gt;保育士としての専門性とは何なのか、社会的養護における保育士の倫理と責務とはどういうものなのか、具体的に考え行動レベルまで落とし込めるようにする。</p> <p>&lt;事前学習&gt;児童養護施設等の倫理綱領を調べ目を通しておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
13	事例をとおして当事者視点で支援する①	<p>&lt;学習内容&gt;児童養護施設でのエピソードを基に、どのように子どもを支援するのかを考える。また、当事者視点での支援の考え方について実際に意見を出し合い考えていく。</p> <p>&lt;事前学習&gt;エピソードに目を通しておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
14	事例をとおして当事者視点で支援する②	<p>&lt;学習内容&gt;前回の続き。</p> <p>&lt;事前学習&gt;エピソードに目を通しておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>

1 5	社会的養護の課題とこれから	<p>&lt;学習内容&gt;これまでの学びのまとめと、社会的養護のこれからについて考えていく。</p> <p>&lt;事前学習&gt;児童福祉法改定と新しい社会的養育ビジョンを振り返っておく。(30分)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
-----	---------------	---

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教職実践演習		飯塚 恭一郎		2	後期	演習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2309		
		担当教員	青沼典子 平嶋一臣 田尻由美子 今村隆信 谷川裕子 豊辻晴香 難波彰人 古野愛子 砥上あゆみ 菅原亜紀 島中智恵					
幼	科 目	教育実践に関する科目						必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育実践演習						
保	系 列	総合演習						必修

<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	保育エピソード	・教育実習や保育実習の経験を「保育エピソード」をもとに振り返り、保育者の役割や専門性についての問題意識を高める。						
2	ロールプレイ	・保育エピソードの「ロールプレイ」を通して、保育者として高い当事者意識を持って子ども理解と保育内容に関する考察を深めていく。						
3	ディスカッション	・自分自身の子ども観や保育観を言語化していくと同時に、グループディスカッションを通して多角的な視点で子どもの育ちと保育を捉えていく。						
4	保育観	・これまでの学習や実習体験によって体得した保育スキルや方法を整理し自分自身の保育の専門性を再確認と同時に次に課題を得る。						
5	実践力							

<b>【到達目標】</b>							
1. これまでの保育・教育実践を振り返り学びを深く考察することで、保育者の使命感や責任感を改めて自覚する。また、得られた知見をフィードバックして次の保育・教育の質の向上を図ることができる。							
2. 多様な視点から子どもと保育について考察し、保育を再構成することができる。また、保育者同士の連携や協同的な見地からも保育を捉えて計画することができる。							
3. 保育・教育の課題を見出すや解決していく力、効果的保育を組み立てる力、実践における具体的知識技術などを多様な視点から捉え、その実践力を高めていくことができる。							

<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>							関連性
------------------------------	--	--	--	--	--	--	-----

<b>【知識・理解・技能】</b>							
-------------------	--	--	--	--	--	--	--

1.	保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2.	子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3.	保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○

<b>【思考・判断・表現】</b>							
-------------------	--	--	--	--	--	--	--

1.	多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2.	保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3.	保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○

<b>【関心・意欲・態度】</b>							
-------------------	--	--	--	--	--	--	--

1.	子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2.	保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3.	子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

<b>【成績評価の方法】</b>							
------------------	--	--	--	--	--	--	--

成績指標	取り組む姿勢	レポート提出	実践力	合計			
評価割合 (%)	40	30	30	100			

<b>【成績評価の基準】</b>							
------------------	--	--	--	--	--	--	--

評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準		
S	保育者としての知識・技能を持ち、課題に対して主体的に取り組む姿勢と課題解決できる能力を持つ。保育者としての資質を十分備える。		
A	保育者としての知識・技能を持ち、保育者としての自覚を持ち課題解決できる。		
B	保育者としての知識・技能を持ち、保育者としての適正を持つ。		
C	保育者としての最低限の知識・技能を持つ。受動的ではあるが課題をこなすことができる。		
<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法</b> 提出されたレポート返却に伴い行う。検定は個別であるため随時解答する。			
<b>【教科書】</b> プリント			
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義の中で紹介する。			
<b>【関連科目】</b> 「実習関連科目」「保育内容指導法に関する科目」			
<b>【受講心得】</b> 主体的に取り組むことを求める。職に就く直前に設けられている、本講義の目的をよく理解して行動す。			
<b>【備考】</b> 幼稚園課程必修・保育士課程必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	授業展開説明・オリエンテーション	青沼 飯塚 谷川	<b>【学習内容】</b> 本授業の概要説明を行う。 <b>【事前学習】</b> シラバスを読み、授業の流れを把握しておく（30分） <b>【事後学習】</b> 今までの実習を振り返っておく（1時間）
2	ロールプレイ演習グループ分けと相談	古野 砥上 菅原 島中	<b>【学習内容】</b> グループに分かれ、保育エピソードを読み <b>【事前学習】</b> シラバスを読み、授業の流れを把握しておく（30分） <b>【事後学習】</b> 今までの実習でのエピソードを振り返っておく（1時間）
3	保育エピソードによるロールプレイ練習・準備①	古野 砥上 菅原 島中	<b>【学習内容】</b> グループに分かれ、保育エピソードを理解し登場人物の心情を読み取る。 <b>【事前学習】</b> 保育エピソードを読み込む（30分） <b>【事後学習】</b> 話し合いの内容を確認しておく（30分）
4	保育エピソードによるロールプレイ練習・準備②	古野 砥上 菅原 島中	<b>【学習内容】</b> グループに分かれ、保育エピソードを心情に合わせた演技ができよう、グループで確認する。 <b>【事前学習】</b> 登場人物を確認する（30分） <b>【事後学習】</b> 発表に向けて練習する（1時間）
5	ロールプレイ発表	古野 砥上 菅原 島中	<b>【学習内容】</b> 保育エピソードの発表を行う。 <b>【事後学習】</b> 発表によって学んだことを記述する（1時間）

6	保育エピソードの分析と考察	古野 砥上 菅原 島中	【学習内容】 ロールプレイによって新たな知見が得られることを学ぶ。【事後学習】 学習内容を振り返る (30分)
7	保育エピソードの分析と考察によるディスカッション①	青沼 飯塚 平嶋	【学習内容】 自身の考えと他者の考えをディスカッションをする中で自身の保育観を探る。【事後学習】 他者の考えを整理する (1時間)
8		難波 谷川 今村	
9	ディスカッションのまとめ発表	青沼 飯塚 平嶋	【学習内容】 自身の考える保育観をプレゼンテーションによって表現し、また他者の発表を聞く 【事後学習】 プレゼンテーションを振り返り、得られた学びを記述する (1時間)
10		難波 谷川 今村	
11	全員によるディスカッションのまとめ発表	青沼 飯塚 難波 谷川 平嶋 今村	【学習内容】 保育観についてまとめる【事後学習】 学習の学びを記述する (1時間)
12		青沼 飯塚 難波 谷川 平嶋 今村	
13		青沼 飯塚 難波 谷川 平嶋 今村	
14	ディスカッションの振り返り	青沼 飯塚	【学習内容】 第1回からいままでの振り返りを行うとともに、何をどのように学んだのかを確認する。【事後学習】 学習内容を記述する (30分)

1 5	保育技能検定演習／オリエンテーションと課題発表	青沼 飯塚 谷川	【学習内容】保育者として即戦力となる実践力の再確認を行う。【事後学習】実践力を向上させるための練習、再学習する（1時間）
1 6	保育技能練習①	豊辻	【学習内容】保育者としての実践力の再確認と向上するための練習（ピアノ）【事後学習】練習を行う（30分）
1 7	保育技能練習②	飯塚 砥上	【学習内容】保育者としての実践力の再確認と向上するための練習（生活）【事前学習】子どもの病気・対処法また緊急対応について調べる（1時間）【事後学習】再確認を行う（30分）
1 8	保育技能検定①	豊辻	【学習内容】保育現場の教員もしくは保育者の前で課題を発表する（ピアノ）【事後学習】課題解決する（30分）
1 9	保育技能練習③	飯塚 田尻	【学習内容】保育者としての実践力の再確認と向上するための練習（環境）【事前学習】実習園の見取り図を確認する（30分）【事後学習】学習内容を再確認する（1時間）
2 0	保育技能検定②	飯塚 田尻	【学習内容】保育現場の教員もしくは保育者の前で課題を発表する（環境）【事後学習】課題解決する（30分）
2 1	保育技能練習④	難波	【学習内容】保育者としての実践力の再確認と向上するための練習（造形）【事後学習】課題を完成させる（1時間）
2 2	保育技能検定③	難波	【学習内容】保育現場の教員もしくは保育者の前で課題を発表する（造形）【事後学習】課題解決する（30分）
2 3	保育技能練習⑤	青沼	【学習内容】保育者としての実践力の再確認と向上するための練習（絵本）【事前学習】対象年齢に応じた絵本を選定しておく（30分）【事後学習】練習する（30分）

2 4	保育技能検定④	青沼	【学習内容】保育現場の教員もしくは保育者の前で課題を発表する（絵本）【事後学習】課題解決する（30分）
2 5	保育技能練習⑥	青沼	【学習内容】保育者としての実践力の再確認と向上するための練習（手遊び）【事前学習】発達に応じた手遊びを整理しておく（1時間）【事後学習】練習する（1時間）
2 6	保育技能検定⑤	青沼	【学習内容】保育現場の教員もしくは保育者の前で課題を発表する（手遊び）【事後学習】課題解決する（30分）
2 7	保育技能検定仕上げ	青沼 飯塚 谷川	【学習内容】保育現場の教員もしくは保育者の前で課題の再チャレンジを行う【事後学習】課題解決する（30分）
2 8	保育技能検定最終チェック	青沼 飯塚 谷川 豊辻 難波	【学習内容】保育現場の教員もしくは保育者からの評価をいただく【事後学習】課題解決する（30分）
2 9	保育技能検定演習の振り返り	青沼 飯塚 谷川 豊辻 難波	【学習内容】今後保育者として子どもの前に立つ使命感や責任感について再確認するとともに自己課題を見出す【事後学習】自身の良さや課題を記述する（30分）
3 0	まとめ	青沼 飯塚 谷川 豊辻 難波	【学習内容】保育者としての質の向上と学ぶ姿勢について再確認する。【事後学習】保育者としての資質とは何かを記述する（1時間）

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育方法論		平嶋 一臣		1	後期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2310	
		担当教員	平嶋 一臣					

  

幼	科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		
保	系列	保育の内容・方法に関する科目		選択必修

  

<b>【キーワード】</b>	<b>【概要】</b>					
1 教育方法	「学校」とは何か、どうあるべきものかについて具体的な現場の姿を知る。またこれからの現場教師に求められる知識・資料収集・具体的な指導法についての基本を学習する。					
2 教育原理						
3 教育哲学						
4 幼児教育						
5 幼小連携教育						
<b>【到達目標】</b>						
1. 教育の目的を達成するための方法や技術を、具体的な実践の場を想定し習得することができる。						
2. 枠組みにとらわれない自由な発想を培う教育方法を理解し、教育実践に結び付けることができる。						
3. 常に教育界の新しい情報を掴み、それを参考にしながらオリジナルで柔軟な教育方法を編み出すことができる。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>	関連性					
<b>【知識・理解・技能】</b>						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○					
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○					
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○					
<b>【思考・判断・表現】</b>						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○					
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○					
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○					
<b>【関心・意欲・態度】</b>						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○					
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○					
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○					
<b>【成績評価の方法】</b>						
成績指標	定期試験	課題レポート	合計			
評価割合 (%)	70	30	100			
<b>【成績評価の基準】</b>						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b>		
毎時間課題レポートを提出する。次週の初めに添削した課題を返却し、その反省点に立ち本時のスタートとする。		
<b>【教科書】</b>		
平嶋一臣編・著『講義資料』 その他必要に応じてプリントを配布する。		
<b>【参考書・参考資料等】</b>		
必要に応じて、授業中に紹介する。		
<b>【関連科目】</b>		
教育原理・教育史・幼児心理学		
<b>【受講心得】</b>		
事前学習のために、積極的に図書館を利用する。 真面目で積極的な受講態度で臨むこと。		
<b>【備考】</b>		
教育（特に幼児教育）に関する時事問題を随時挿入していくので、日頃から関心をもって生活すること。		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1	オリエンテーション・教育方法の基本的概念	<p>&lt;学習内容&gt;授業中の約束事を連絡した後、15回の授業の概要を説明および事前事後の学習について説明する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;15回の講義要項（シラバス）に目を通し、全体の流れを掴むとともに、質問事項を整理しておく。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;15回の講義要項の概要を確認しておく（0.5時間）</p>
2	幼稚園・小・中学校におけるさまざまな課題	<p>&lt;学習内容&gt;幼小連携・小中連携の現状を学び、その成果の生かし方および今後の問題点について考える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;教育関係図書（図書館にあり）・新聞・ネットで、幼小連携・小中連携の現状を調べておく。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見質問を持つ。（1時間）</p>
3	幼稚園教育要領と学習指導要領の具体的実践化と評価	<p>&lt;学習内容&gt;幼小連携の在り方について、教育要領・指導要領における共通項目を中心に、具体的な幼児・児童の活動を想定できるようになる。</p> <p>&lt;事前学習&gt;幼稚園教育要領と小学校学習指導要領を読み込み、両者の共通項目について把握しておく。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見質問を持つ。（1時間）</p>
4	教育方法① さまざまな授業形態を知る	<p>&lt;学習内容&gt;ソクラテス・コメニウス・フレーベル・プルーナー・ペスタロッチ・モンテッソーリの教育にふれ、教育方法史の概要を掴む。</p> <p>&lt;事前学習&gt;教育（方法）の歴史について、あらかじめ教育図書やネットなどで調べておく。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見質問を持つ。（1時間）</p>
5	教育方法② 幼小連携の視点に立つ授業	<p>&lt;学習内容&gt;「幼小連携教育」をテーマに研究している幼稚園・小学校の発表資料や活動中のDVDを参考に、その現状と今後の課題を考える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;「幼小連携教育」の姿をイメージし、考えられる問題点を箇条書きにしてまとめておく。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見質問を持つ。（1時間）</p>

6	教育方法③ 特別支援教育の視点に立つ授業	<p>&lt;学習内容&gt;特別な支援を要する幼児・児童への指導（配慮）が、具体的な現場でどのように行われているか、またその新たな課題について考えることができる。</p> <p>&lt;事前学習&gt;特別な指導や配慮を要する幼児・児童の姿を想定し、自分の考えを箇条書きにまとめておく。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見質問を持つ。（1時間）</p>
7	教育方法④ 道徳教育の視点に立つ授業	<p>&lt;学習内容&gt;小学校で教科として扱われることになった『道徳』教科書の構成と、幼児期における五領域の指導場面との関連性を学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;小学校学習指導要領『道徳編』を読み込み、19項の徳目について予め把握しておく。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見質問を持つ。（1時間）</p>
8	教育方法⑤ 特別活動の視点に立つ授業	<p>&lt;学習内容&gt;小学校における特別活動の内容と、幼児期における五領域の指導場面との関連性を学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt;小学校学習指導要領『特別活動編』を読み込み、その学習内容について予め把握しておく。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見質問を持つ。（1時間）</p>
9	教材研究の方法①（視聴覚機器を活用した保育の立案と教材の作成）	<p>&lt;学習内容&gt;視聴覚機器使用による学習効果を考え、その長所を活かした幼小期の指導法について場面ごとに具体的な立案ができるようになる。</p> <p>&lt;事前学習&gt;自分の過去に受けた視聴覚機器を使っでの授業で、印象に残っていることをまとめておく。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見質問を持つ。（1時間）</p>
10	教材研究の方法②（パワーポイントによる保育案の作成）	<p>&lt;学習内容&gt;保育園実習・幼稚園実習を想定し、これまで9回の学びを活かした指導案をグループ別に作成する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;パワーポイントの作成および発表の手順について、予めグループで打ち合わせをしておく。（2時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見質問を持つ。（1時間）</p>
11	学習指導案の発表（基本的事項を理解と作成）	<p>&lt;学習内容&gt;指導案作成の基本的事項を再確認し、前時に作成した保育園・幼稚園における指導案をグループ毎にパワーポイントを使って発表する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;無駄のない内容と持ち時間（10分間）を考えた、グループ別発表の手順を再確認しておく（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見質問を持つ。（1時間）</p>
12	学習指導案についてグループ討議を行う	<p>&lt;学習内容&gt;前時に発表した指導案について、意見・質問を中心にグループ討議・全体討議を行う。</p> <p>&lt;事前学習&gt;グループ討議の前段として、各グループに対する個々人の意見・質問を予め準備しておく。（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見質問を持つ。（1時間）</p>

1 3	学級経営案の作成と授業における具現化		<p>&lt;学習内容&gt; 幼児期の子どもを預かる自分として、クラスをどのように導いていきたいか、そのために日頃からどのような指導に心掛けるか、主体的な考えを持つ。</p> <p>&lt;事前学習&gt; 自分の思い出に残る担当・担任の先生を想起し、そのどこに好印象が残っているのかをまとめておく。(1時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt; 返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見質問を持つ。(1時間)</p>
1 4	授業における事故対応と危機管理意識		<p>&lt;学習内容&gt; 幼児期・児童期における事故対応および日頃からの危機管理意識の大切さについて、具体的な事例から学ぶ。</p> <p>&lt;事前学習&gt; 教育図書・新聞・ネットにより、幼稚園・小学校での事故と対応および危機管理の事例を調べておく。(1時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt; 返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見質問を持つ。(1時間)</p>
1 5	教育方法論を学び終えて（学生がグループでパワーポイントを使い全体発表する）		<p>&lt;学習内容&gt; これまで14回の『教育方法論』を学び、印象に残ったこと、今後の授業に活かせることを中心に各グループ別にパワーポイントを使い発表する。</p> <p>&lt;事前学習&gt; パソコン教室で、各グループ別に行う発表資料をパワーポイントに作成しておく。(1時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt; 15回の授業を振り返り、次回定期試験に向けて『教育方法論』で学んだポイントを復習しておく。(1時間)</p>
1 6	定期試験		15回の授業を終え、授業理解の全体を確認する。

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
医療保育		楠野 雅子		2	後期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE2311		
		担当教員	楠野 雅子					
幼 保	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目						選択必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	生命の保持	病児・病後児保育、病気の子どもの医療面のニーズや倫理的配慮の必要性、疾病により日常生活に制限のある子どもの対応について、成長発達過程にある子どもの援助、医療チームの一員として業務の展開方法、病気の子どもと家族が抱えがちな心理社会的問題、医療保育のための環境を整える方法（感染症予防と主な感染症の対応） 医療保育の場における安全管理						
2	安全な生活環境							
3	心身の発達							
4	遊びと学習援助							
5	家族への援助							
<b>【到達目標】</b>		1. 医療保育とは何か、その意義と役割を理解できる 2. 医療保育のための感染症予防、主な症状に対する対応の仕方が理解できる 3. 医療保育の実践の基本課題と倫理的立場を理解できる						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>								関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	定期試験			提出物および日常の受講態度			合計	
評価割合 (%)	80			20			100	
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。							
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。							
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。							
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。							

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b>		
課題レポートについて、返却時、コメントの内容を確認して、返答をすること。		
<b>【教科書】</b>		
適宜資料配布		
<b>【参考書・参考資料等】</b>		
『実践 保育学』帆足英一監修 『医療保育』診断と治療社 『病気の子供の心理社会的入門』谷川弘治著 『医療保育テキスト』日本医療保育学会 『病児保育』一般財団法人日本病児保育協会（著）英治出版		
<b>【関連科目】</b>		
「子どもの保健」「子どもの健康と安全」		
<b>【受講心得】</b>		
病児・病後児保育について、知識・技術の習得に努めること		
<b>【備考】</b>		
保育士資格選択必修科目		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 医療保育について		<学習内容>医療保育とは、病児・障害児保育の保健管理、他職種との連携、地域・保護者との連携 <事前学習>初めの講義のため講義要項に目を通しておく（1時間）<事後学習>講義内容の復習（1時間）
2 保育の役割		<学習内容>医療保育における保育士の役割について。安全に過ごせる環境と、情緒が安定し、入院生活に適応できるように、他職種との連携。遊びや学びの援助。 <事前学習>資料に目を通しておく（1時間）<事後学習>講義内容の復習（1時間）
3 保育活動		<学習内容>保育活動をする上での留意事項（情報収集、準備、保育活動の実際、報告） <事前学習>資料に目を通しておく（1時間）<事後学習>講義内容の復習（1時間）
4 生活援助と家族支援		<学習内容>入院生活で、病所や治療により、様々な制限を要する子どもの、食事、排泄、清潔、睡眠などの日常生活援助<事前学習>資料に目を通しておく（1時間）<事後学習>講義内容の復習（1時間）
5 事故と安全対策		<学習内容>保育中に起こりうる事故と安全対策。インシデント、アクシデント発生時の保育士の対応と報告<事前学習>資料に目を通しておく<事後学習>講義内容の復習（1時間）
6 保育記録		<学習内容>医療現場における保育記録、チーム医療を実践する中で他職種と内容の共有しやすい記録 <事前学習>資料に目を通しておく（1時間）<事後学習>講義内容の復習（1時間）

7	感染症予防と対策①		<p>&lt;学習内容&gt;感染症について、予防できる感染症と治療できる感染症、感染症対策の基本</p> <p>&lt;事前学習&gt;資料に目を通しておく（1時間）&lt;事後学習&gt;講義内容の復習（1時間）</p>
8	感染症予防と対策②		<p>&lt;学習内容&gt;学校保健安全法、予防接種</p> <p>&lt;事前学習&gt;資料に目を通しておく（1時間）&lt;事後学習&gt;講義内容の復習（1時間）</p>
9	子どもの主な疾患と症状①		<p>&lt;学習内容&gt;子どもの主な疾患と症状に対する対応&lt;事前学習&gt;資料に目を通しておく（1時間）&lt;事後学習&gt;講義内容の復習（1時間）</p>
10	子どもの主な疾患と症状②		<p>&lt;学習内容&gt;子どもの主な疾患と症状に対する対応&lt;事前学習&gt;資料に目を通しておく（1時間）&lt;事後学習&gt;講義内容の復習（1時間）</p>
11	症状別保育支援①		<p>&lt;学習内容&gt;各症例に沿って保育支援における、必要な情報をアセスメントし、保育計画設定、留意点、配慮点&lt;事前学習&gt;資料に目を通しておく&lt;事後学習&gt;講義内容の復習（1時間）</p>
12	症状別保育支援②		<p>&lt;学習内容&gt;各症例に沿って保育支援における、必要な情報をアセスメントし、保育計画設定、留意点、配慮点&lt;事前学習&gt;資料に目を通しておく（1時間）&lt;事後学習&gt;講義内容の復習（1時間）</p>
13	症状別保育支援③		<p>&lt;学習内容&gt;各症例に沿って保育支援における、必要な情報をアセスメントし、保育計画設定、留意点、配慮点</p> <p>&lt;事前学習&gt;資料に目を通しておく（1時間）&lt;事後学習&gt;講義内容の復習（1時間）</p>
14	他職種との連携について		<p>&lt;学習内容&gt;医療現場での他職種について、他部署との連携、チーム医療における保育士の在り方</p> <p>&lt;事前学習&gt;資料に目を通しておく（1時間）&lt;事後学習&gt;講義内容の復習（1時間）</p>
15	まとめ		

16	試験		
----	----	--	--

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究Ⅳ		難波 章人	2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング	CE2313	
		担当教員	難波 章人				
幼	科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目					
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法					
保	系列	保育の内容・方法に関する科目					選択必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>					
1	保育技術	一定サイズの玩具や遊具を制作・試行することによって、素材の特性について理解を深め、保育環境に適した素材や制作方法を学ぶ。また、保育の環境構成に存在するものが、子どもの生活や遊びにどのような影響を与えるか、子どもの生活や遊びを豊かにする玩具や遊具の在り方について考察を深める。サービ斯拉ーニングの一環としてこどもフェスタや保育現場にて遊びを提供する。					
2	個性						
3	指導法						
4	地域						
5	サービ斯拉ーニング						
<b>【到達目標】</b>		1. 個々の特性を活かした保育・教育の専門性に気付くことができる。 2. 保育・教育指導に関する学習内容を、具体的な実践の場において検証することができる。 3. 保育における効果的な指導法を追究することができる。					
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>							関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○
<b>【思考・判断・表現】</b>							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							○
<b>【関心・意欲・態度】</b>							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							○
<b>【成績評価の方法】各表現活動における</b>							
成績指標	受講態度等	各活動におけるレポート・提出物		各活動発表	合計		
評価割合 (%)	40	40		20	100		
<b>【成績評価の基準】</b>							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	

評語	評価の基準	
S	積極的に取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物の内容が十分である。	
A	取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物の内容が十分である。	
B	取り組み内容を理解しているが、課題・提出物の内容が不十分である。	
C	取り組み内容の概要を理解しているが、課題・提出物が最低限の内容に留まっている。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートについてコメントを返却するので確認して返答すること。		
【教科書】 特に指定しない。		
【参考書・参考資料等】 講義の中で紹介する。		
【関連科目】 「保育・教育基礎研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「保育内容に関する科目全般」 「子どもの理解に関する科目全般」「保育・教職実践演習」		
【受講心得】 プロの保育者・教育者を目指す志をもって臨む。		
【備考】 保育士課程 選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション	<学習内容>授業の全体について説明する。 <事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（0.5時間） <事後学習>0.5時間
2	段ボールを用いた室内遊具の制作①	<学習内容>想定する発達段階の検討、アイディアスケッチ <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
3	段ボールを用いた室内遊具の制作②	<学習内容>制作方法の検討 <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
4	段ボールを用いた室内遊具の制作③	<学習内容>材料選択を決定してサイズを考える。 <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
5	段ボールを用いた室内遊具の制作④	<学習内容>大まかな構造をデザインする。 <事前学習>講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）

6	段ボールを用いた室内遊具の制作⑤	<p>&lt;学習内容&gt;大まかな実物大を完成させる。          &lt;事前学習&gt;講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。(0.5時間)          &lt;事後学習&gt;活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)</p>
7	段ボールを用いた室内遊具の制作⑥	<p>&lt;学習内容&gt;細部の手直しを行う。          &lt;事前学習&gt;講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。(0.5時間)          &lt;事後学習&gt;活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)</p>
8	段ボールを用いた室内遊具の制作⑦	<p>&lt;学習内容&gt;製作物に着色する。          &lt;事前学習&gt;講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。(0.5時間)          &lt;事後学習&gt;活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)</p>
9	サービスラーニングの実際①	<p>&lt;学習内容&gt;こどもフェスタにて子どもとの触れ合い、また、遊びの観察を行う。          &lt;事前学習&gt;打ち合せ内容を確認のこと。(0.5時間)          &lt;事後学習&gt;活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)</p>
10	サービスラーニングの実際②	<p>&lt;学習内容&gt;こどもフェスタにて子どもとの触れ合い、また、遊びの観察を行う。          &lt;事前学習&gt;打ち合せ内容を確認のこと。(0.5時間)          &lt;事後学習&gt;活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)</p>
11	指導案作成	<p>&lt;学習内容&gt;保育現場での設定保育を想定して指導案を作成する。          &lt;事前学習&gt;講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。(0.5時間)          &lt;事後学習&gt;活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)</p>
12	活動準備①	<p>&lt;学習内容&gt;各自の設定した造形活動の準備を行う。          &lt;事前学習&gt;講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。(0.5時間)          &lt;事後学習&gt;活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)</p>
13	活動準備②	<p>&lt;学習内容&gt;各自の設定した造形活動の準備を行う。          &lt;事前学習&gt;講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。(0.5時間)          &lt;事後学習&gt;活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)</p>
14	造形活動の実際	<p>&lt;学習内容&gt;指導案に沿って造形活動の保育を実践する。          &lt;事前学習&gt;講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。(0.5時間)          &lt;事後学習&gt;活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)</p>
15	振り返りとまとめ	<p>&lt;学習内容&gt;保育実践における写真、映像から振り返りと検討会を行い保育の改善につなげる。          &lt;事前学習&gt;講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。(0.5時間)          &lt;事後学習&gt;活動内容および学習内容を整理しておくこと。(0.5時間)</p>

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究IV		谷川 裕子		2	後期	演習 実技	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE2313		
		担当教員	谷川 裕子					
幼	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系列	保育の内容・方法に関する科目					選択	
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	ゼミ	子どもの健康・体力・運動能力について考えます。実際園に行き、外遊び、運動遊びを観察し、子ども達の運動実態を把握した上で、子どもたちの体力・運動能力を測定します。測定結果より得られた情報に応じた遊びを園児に提供します。また親子運動遊びにも参加し、運動習慣を意識させるような遊びを提供できる人を目指します。						
2	3歳以上児							
3	体力・運動能力							
4	身体組成							
5	運動遊び							
<b>【到達目標】</b>		1. 子どもの運動実態を把握することができる。 2. 子どもの体力・運動能力を客観的に把握することができる。 3. 子どもの運動を支える環境を意識した運動遊びを提案できるようになる。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>								関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	取り組む態度			レポート		合計		
評価割合 (%)	70%			30%		100		
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	主体的に取り組む態度を持ち、課題解決に向けて論理的思考を持っている。							
A	取り組む姿勢を持ち、学習課題に取り組むことができている。							
B	授業内容の概要は理解しており、受動的ではあるが、活動に関して取り組む姿勢がある。							
C	授業内容の概要を理解しており、活動に対して最低限の参加があった。							

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法</b> 知識と技能を園において発揮することとなる。実際の子どもとともに解説しながら行う。		
<b>【教科書】</b> 『すこやかな子どもの心と体を育む 運動遊び』井上勝子他 建帛社		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業の中で紹介する。		
<b>【関連科目】</b> 「保育・教育指導法Ⅰ・Ⅱ」「保育内容に関する科目全般」「子ども理解に関する科目全般」		
<b>【受講心得】</b> 遊びのリーダーとして率先して身体を使うこと。		
<b>【備考】</b>		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 オリエンテーション		<b>【学習内容】</b> 本授業の概要説明を行う。 <b>【事前学習】</b> シラバスを確認し、子どもの運動能力について調べておく（1時間） <b>【事後学習】</b> 授業内容の確認を行う（30分）
2 スケジュール確認・子どもの運動について		<b>【学習内容】</b> 学外研修の日程を確認する。子どもの運動の状況を知る。 <b>【事前学習】</b> 自身の子どもの頃の運動遊びを思い出しておく <b>【事後学習】</b> 授業内容の確認を行う（30分）
3 子どもの運動実態について様子を観察		<b>【学習内容】</b> 学外研修（幼稚園）にて子どもの運動遊びの様子を確認する。 <b>【事前学習】</b> 子どもの運動実態の情報を収集する（30分）
4		<b>【学習内容】</b> 第3回と連続して行う。学外研修（幼稚園）にて子どもの運動遊びの様子を確認する。 <b>【事後学習】</b> 授業内容の確認を行う（30分）
5 子どもの体力・運動能力測定方法		<b>【学習内容】</b> 運動能力とは何か、またその指標を知り、測定方法を知る。 <b>【事前学習】</b> 運動能力測定方法の情報を収集する（30分）
6		<b>【学習内容】</b> 第5回と連続して行う。運動能力の測定項目と測定方法について知る。
7		<b>【学習内容】</b> 第6回と連続して行う。運動能力の測定項目と測定方法について知る。 <b>【事後学習】</b> 学習内容を振り返り、整理する。

8	測定の実際	【学習内容】幼稚園にて実際に子どもの体力・運動能力および身体組成を測定する。【事前学習】測定方法を確認しておく（1時間）
9		【学習内容】第8回と連続して行う。幼稚園にて実際に子どもの体力・運動能力および身体組成を測定する。【事後学習】データを整理しておく（30分）
10	測定評価	【学習内容】子どもの測定データをコンピューターに入力する。【事前学習】測定データを確認しておく（1時間）
11		【学習内容】第11回と連続して行う。入力されたデータを分析・評価する。【事後学習】データをまとめる（30分）
12	子どもへ運動遊び提供	【学習内容】得られたデータ結果より、体力・運動能力および身体組成の良好な状態へ促すような運動遊びを提案する。【事前学習】データ結果より適切な運動遊びを考案する（1時間）
13		【学習内容】第12回と連続して行う、得られたデータ結果より、体力・運動能力および身体組成の良好な状態へ促すような運動遊びを提案する。【事後学習】遊びの提供の振り返り（1時間）
14	親子遊び運動の提案	【学習内容】子どもの遊ぶ環境について考え、親とのコミュニケーション遊びを考える。【事前学習】遊びの環境について調べておく（1時間）
15	保護者の運動について	【学習内容】子どもの体力・運動能力および身体組成結果を保護者に伝えるとともに、運動の重要性について伝達する。【事後学習】本授業を振り返る（1時間）

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究Ⅳ		菅原 亜紀		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE2313		
		担当教員	菅原 亜紀					
幼	科目	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列	保育の内容・方法に関する科目						選択必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	児童文化財	お話（素話）、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアターなどの有形、無形の児童文化財を使った実践活動について学びます。基本的技術・技能と指導技術について個人の興味のある題材をもとに学習します。また、地域（幼稚園や保育所など）におけるサービ斯拉ーニングをとおして実践力を身につけていきます。						
2	保育技術							
3	製作							
4	表現							
5	保育方法							
<b>【到達目標】</b>		1. 個々の特性を活かした保育・教育の専門性に気づくことができる。 2. 保育・教育指導に関する学習内容を、具体的な実践の場において検証することができる。 3. 保育における効果的な指導法を追求することができる。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>								関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	受講態度および発表			提出物			合計	
評価割合 (%)	70			30			100	
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E		F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満了した成績	合格に至らない成績		受験資格なし (出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0		0	
評語	評価の基準							
S	講義で学んだ内容を十分に理解しており、実践の場での確に表現することができる。							
A	講義で学んだ内容をよく理解しており、実践の場で十分に表現することができる。							
B	講義で学んだ内容を理解しており、実践の場で表現することができる。							
C	総じて講義で学んだ内容を理解しており、実践の場で最低限表現することができる。							

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 講義内でその都度フィードバックを行う。		
<b>【教科書】</b>		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義の中で紹介します。		
<b>【関連科目】</b> 「保育・教育基礎研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「保育内容に関する科目全般」 「子どもの理解に関する科目全般」「保育・教職実践演習」		
<b>【受講心得】</b> 全員が安心して講義を受けられるよう、それぞれが意識して受講すること		
<b>【備考】</b>		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 オリエンテーション これまでにふれた児童文化財について		<学習内容>授業の概要他、授業に関するオリエンテーションを行う。幼少期から本学の講義に至るまでにふれてきた児童文化財について考える。 <事前学習>シラバス（講義要項）に目をとおしておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
2 自分の題材探し		<学習内容>この授業で自分が探求したいと考える題材について探る。 <事前学習>自分の興味や関心、得意な分野などについてイメージしておく（30分） <事後学習>選んだ題材について、学習する（1時間）
3 児童文化財の魅力と子どもの育ち		<学習内容>選んだ題材について調べてみる。作者の意図や時代背景など、作品を読み解く。また、子どもの育ちにどのようにこれらを活かしていくことができるのか考える。 <事前学習>選んだ題材に関連する本などを図書館で探してみる（1時間） <事後学習>学びを整理する（30分）
4 台本作り① 製作活動①		<学習内容>実践に向けて台本作り、製作を行う。 <事前学習>必要な準備物などを用意し、どのように進めていくのかを検討しておく（1時間） <事後学習>実際にふれてみてイメージトレーニングを行う（30分）
5 台本作り② 製作活動②		

6	練習①		
7	練習②		
8	練習③		<p>&lt;学習内容&gt;保育の見直しをしながら個人練習を行っていく。</p> <p>&lt;事前学習&gt;練習する（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;練習する（1時間）</p>
9	練習④		
10	グループ内発表とフィードバック①		
11	グループ内発表とフィードバック②		<p>&lt;学習内容&gt;グループ内で発表を行い、お互いにフィードバックし合うことで学びを深める。</p> <p>&lt;事前学習&gt;練習する（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;練習する（1時間）</p>
12	最終練習		<p>&lt;学習内容&gt;フィードバックをもとに再度練習する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;練習する（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;練習する（1時間）</p>
13	園での発表		
14	園での発表		<p>&lt;学習内容&gt;子どもたちの前で実践を行う。また、他の学生の発表について観察し、気づきや良かった点など記録する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;実践を行うクラスの子どもの発達などをふまえて練習する（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;実践についての反省や良かった点などをまとめておく（1時間）</p>
15	ふりかえりとまとめ		<p>&lt;学習内容&gt;発表についてのフィードバックと全体のふりかえりを行う。</p> <p>&lt;事前学習&gt;反省や気づきをもとに手直しなど行う（1時間）</p> <p>&lt;事後学習&gt;フィードバックをもとに今後の実践に向けて、個人で見直しを行う（1時間）</p>

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究Ⅳ		砥上 あゆみ		2	後期	演習	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE2313		
		担当教員	砥上 あゆみ					

  

幼	科目			
	施行規則に定める科目区分 又は事項等			
保	系列	保育の内容・方法に関する科目		選択

  

<b>【キーワード】</b>	<b>【概要】</b>
1 子育て支援	双子の会の親子とのふれあい(毎月、第3月曜日)が中心となります。保育の専門性をいかした子育て支援について学んでいきましょう。
2 保育	
3 環境	
4 遊び	
5	

  

<b>【到達目標】</b>	
1. 子育て支援における保育者の役割を説明できる。	
2. 保育の専門性をいかした子育て支援を実践することができる。	
3. 子どもの成長を保護者と共有することができる。	

  

<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>	関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
<b>【思考・判断・表現】</b>	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

  

<b>【成績評価の方法】</b>			
成績指標	受講態度	提出物	合計
評価割合 (%)	70%	30%	100

  

<b>【成績評価の基準】</b>						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	積極的に取り組み内容を十分に理解しており、課題に必要な内容を的確に記述している。					
A	取り組み内容を十分に理解しており、課題に必要な内容を十分に記述している。					
B	取り組み内容を理解しているが、課題に必要な内容の記述が十分ではない。					
C	取り組み内容の概要を理解しているが、課題が最低限の内容の記述に留まっている。					

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 提出された課題等については、返却を行い、要点を確認する。		
<b>【教科書】</b> 適宜、プリント等を配布する。		
<b>【参考書・参考資料等】</b>		
<b>【関連科目】</b> 「保育内容に関する科目全般」「子どもの理解に関する科目全般」		
<b>【受講心得】</b> 親子とのふれあいが中心となるため、保育士として受容的な態度で支援者としての役割を考え臨んでほしい。		
<b>【備考】</b>		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1	オリエンテーションおよび授業概要の説明	授業概要の説明、地域子育て支援に携わる際の留意点等について説明を行う。 事前学習（0.5時間） シラバスを読んでおくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容の要点を整理しておくこと。
2	地域子育て支援の実践準備	親子が安心して過ごせるように多目的演習室の環境を整える。 事前学習（0.5時間） 環境構成について考えておくこと。 事後学習（0.5時間） 環境構成における気づきをまとめておくこと。
3	地域子育て支援①	双子の会の親子とのふれあいが主となる。各々が活動の目標を考え、実践し、振り返りをおこなう。（2コマ連続） 事前学習（0.5時間） 活動の目標を考えておくこと。
4		事後学習（0.5時間） 実践における気づきをまとめておくこと。
5	ふりかえり	実践をふりかえり、子育て家庭が抱えている課題等を見出し、今後の目標をたてる。 事前学習（0.5時間） 子育て家庭が抱えている課題を考えておくこと。 事後学習（0.5時間） 実践における自己課題を記録しておくこと。
6	地域子育て支援の実践準備	親子が安心して過ごせるように多目的演習室の環境構成や活動内容を考える。 事前学習（0.5時間） 活動内容を考えておくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容の要点を整理しておくこと。
7	地域子育て支援②	双子の会の親子とのふれあいが主となる。各々が活動の目標を考え、実践し、振り返りをおこなう。（2コマ連続） 事前学習（0.5時間） 活動の目標を考えておくこと。
8		事後学習（0.5時間） 実践における気づきをまとめておくこと。
9	ふりかえり	実践をふりかえり、子育て家庭が抱えている課題等を見出し、今後の目標をたてる。 事前学習（0.5時間） 子育て家庭が抱えている課題について、気づきを記録しておくこと。 事後学習（0.5時間） 自己課題をまとめておくこと。

1 0	地域子育て支援の実践準備		親子が安心して過ごせるように多目的演習室の環境構成や活動内容を考える。 事前学習 (0.5時間) 活動内容を考えておくこと。 事後学習 (0.5時間) 授業内容の要点を整理しておくこと。
1 1	地域子育て支援③		双子の会の親子とのふれあいが主となる。各々が活動の目標を考え、実践し、振り返りをおこなう。(2コマ連続) 事前学習 (0.5時間)
1 2			活動の目標を考えておくこと。 事後学習 (0.5時間) 実践における気づきをまとめておくこと。
1 3	ふりかえりと事前準備		実践をふりかえり、子育て家庭が抱えている課題等を見出し、今後の目標をたてる。 事前学習 (0.5時間) 子育て家庭が抱えている課題について、気づきを記録しておくこと。 事後学習 (0.5時間) 自己課題をまとめておくこと。
1 4	地域子育て支援④		双子の会の親子とのふれあいが主となる。各々が活動の目標を考え、実践し、振り返りをおこなう。(2コマ連続) 事前学習 (0.5時間)
1 5			活動の目標を考えておくこと。 事後学習 (0.5時間) 実践における気づきをまとめておくこと。

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究Ⅳ		豊辻 晴香	2	後期	演習 実技	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング	CE2305	
		担当教員	豊辻 晴香				
幼	科目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目					選択必修
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>					
1	音楽活動	音楽療法等の手法を応用し、2施設（①地域子育て支援施設、②障害児（者）施設）においての音楽活動に取り組む。その際、対象児（者）の力を引き出すことができるような音楽の活動について考え、実践する。そして、取り組みの中で、地域における子育て支援の意義や、障害をもつ人々やその家族の理解も深める。					
2	音楽療法						
3	地域子育て支援						
4	障害児・者						
5	親子						
<b>【到達目標】</b>		1. 個々の特性を活かした保育・教育の専門性に気付くことができる。 2. 保育・教育指導に関する学習内容を、具体的な実践の場において検証することができる。 3. 保育における効果的な指導法を追究することができる。					
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>							関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○
<b>【思考・判断・表現】</b>							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							○
<b>【関心・意欲・態度】</b>							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							○
<b>【成績評価の方法】</b>							
成績指標	授業態度及び発表		課題（レポート・提出物）			合計	
評価割合（％）	80		20			100	
<b>【成績評価の基準】</b>							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	講義内容を十分に理解しており、学んだ知識や技術を適切に活かしながら保育実践できる。						
A	講義内容を理解しており、学んだ知識や技術を十分に活かしながら保育実践できる。						
B	講義内容を総じて理解しているが、学んだ知識や技術を活かしきれていない保育実践である。						
C	講義内容の概要を理解しており、学んだ知識や技術が最低限みられる保育実践である。						

<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 取り組み姿勢やレポートの内容等について、口頭またはコメントで伝える。		
<b>【教科書】</b> 適時資料配布		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義の中で紹介する。		
<b>【関連科目】</b> 「保育・教育指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「保育内容に関する科目全般」「子どもの理解に関する科目全般」 「音楽表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」		
<b>【受講心得】</b> 日頃より子ども、障害児（者）や、音楽等について関心を持ち、情報収集に努めること。 状況に応じて学習順番等が変更する場合がある。		
<b>【備考】</b> 保育士課程選択必修		
<b>【学習項目】</b>	<b>担当</b>	<b>学習内容、事前・事後学習（学習時間）</b>
1 オリエンテーション		<学習内容>概説される講義要項（シラバス）の内容、活動実践のテーマ、スケジュール及び注意事項について確認する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。（0.5時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（0.5時間）
2 音楽療法入門①：概論		<学習内容>音楽療法の基礎的な理論や技法について、体験を通して学ぶ。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。（0.5時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（0.5時間）
3 音楽療法入門②：セッションで使う曲		<学習内容>音楽療法セッションで使う曲を調べ、その効果や対象者等について考え意見交換する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。（0.5時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（0.5時間）
4 音楽療法入門③：セッションで使う楽器		<学習内容>音楽療法セッションで使う楽器を調べ、その効果や対象者等について考え意見交換する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。（0.5時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（0.5時間）
5 音楽活動①：活動の計画		<学習内容>音楽活動①の実践に向け、利用者（乳幼児と保護者）に適した音楽活動の計画を立てる。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。活動の事前準備をしておくこと。（0.5時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（0.5時間）
6 音楽活動①：活動のシュミレーション		<学習内容>音楽活動①の実践に向け、計画した活動を練習・改善し、実践に備える。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。活動の事前準備をしておくこと。（0.5時間） <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。（0.5時間）

7	音楽活動①：現場での実践 —地域子育て支援施設—		<p>&lt;学習内容&gt;準備した音楽活動①を、地域子育て支援施設にて実践する。実践後には振り返りを行う。</p> <p>&lt;事前学習&gt;活動実践の事前準備をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;実践で得た学び等を整理しておくこと。(0.5時間)</p>
8			
9	音楽活動②：活動の計画		<p>&lt;学習内容&gt;音楽活動②の実践に向け、利用者（障害児・者と支援者）の特性を把握しつつ適した音楽活動の計画を立てる。</p> <p>&lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。活動の事前準備をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。(0.5時間)</p>
10	音楽活動②：活動の計画		<p>&lt;学習内容&gt;音楽活動②の実践に向け、利用者（障害児・者と支援者）の特性を把握しつつ適した音楽活動の計画を立てる。</p> <p>&lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。活動の事前準備をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。(0.5時間)</p>
11	音楽活動②：活動のシュミレーション		<p>&lt;学習内容&gt;音楽活動②の実践に向け、計画した活動を練習・改善し、実践に備える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。活動の事前準備をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。(0.5時間)</p>
12	音楽活動②：活動のシュミレーション		<p>&lt;学習内容&gt;音楽活動②の実践に向け、計画した活動を練習・改善し、実践に備える。</p> <p>&lt;事前学習&gt;日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。活動の事前準備をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。(0.5時間)</p>
13	音楽活動②：現場での実践 —障害児（者）施設—		<p>&lt;学習内容&gt;準備した音楽活動②を、障害児（者）施設にて実践する。実践後には振り返りを行う。</p> <p>&lt;事前学習&gt;活動実践の事前準備をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;実践で得た学び等を整理しておくこと。(0.5時間)</p>
14			
15	まとめ		<p>&lt;学習内容&gt;全授業の内容のまとめを行う。</p> <p>&lt;事前学習&gt;現場実践での学び日や成果などをまとめておくこと。(0.5時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;学びなどをレポートにまとめて提出する。(1.0時間)</p>

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
絵画・造形		難波 章人		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE2315		
		担当教員	難波 章人					
幼	科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	領域に関する専門的事項						
保	系列	保育の内容・方法に関する科目						選択
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	玩具	子どもが、発達に応じて生活や遊びの中でイメージを膨らませながら表現していく際の、保育環境の重要性を鑑み、様々な用具や自然・人工の各種素材、手作り玩具など、子どもの遊びを豊かに展開していくための物的環境について学ぶ。また、また、児童文化財（絵本、紙芝居等）を制作し、その特性や影響を理解する。						
2	発達段階							
3	物的環境							
4	絵本							
5	紙芝居							
<b>【到達目標】</b>		1. 材料・用具を適切に使用し、遊具・玩具の制作ができる。 2. 子どもの発達段階を想定した工夫ができる。 3. 子どもの興味・関心を考えた表現媒体を制作する力を身につける。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>								関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
<b>【成績評価の方法】各表現活動における</b>								
成績指標	態度	表現	技術	合計				
評価割合 (%)	50	25	25	100				
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準	
S	演習内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。	
A	演習内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。	
B	演習内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。	
C	演習内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。	
<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> 授業内容や課題（作品含む）の記録物を回収し、コメントを入れて返却する。		
<b>【教科書】</b> なし		
<b>【参考書・参考資料等】</b> 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他（フレーベル館）		
<b>【関連科目】</b> 「子どもと表現」「保育内容（造形表現）」		
<b>【受講心得】</b> 意欲的に参加すること。		
<b>【備考】</b> 保育士課程 選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 発達段階を踏まえた手作り玩具の制作①		<学習内容> 企画・アイディアスケッチ <事前学習> 事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（30分程度） <事後学習> 授業内容を記録し、振り返る（30分程度）
2 発達段階を踏まえた手作り玩具の制作②		<学習内容> 使用する材料の選択・試作 <事前学習> 材料や題材の事前研究を行う。（30分程度） <事後学習> 授業内容を記録し、振り返る（30分程度）
3 発達段階を踏まえた手作り玩具の制作③		<学習内容> アイディアの再考 <事前学習> 材料や題材の事前研究を行う。（30分程度） <事後学習> 授業内容を記録し、振り返る（30分程度）
4 発達段階を踏まえた手作り玩具の制作④		<学習内容> 制作 <事前学習> 材料や題材の事前研究を行う。（30分程度） <事後学習> 授業内容を記録し、振り返る（30分程度）
5 発達段階を踏まえた手作り玩具の制作⑤		<学習内容> 制作 <事前学習> 材料や題材の事前研究を行う。（30分程度） <事後学習> 授業内容を記録し、振り返る（30分程度）
6 発達段階を踏まえた手作り玩具の制作⑥		<学習内容> 子どもの遊びの展開を想定してのお互いの講評 <事前学習> 材料や題材の事前研究を行う。（30分程度） <事後学習> 授業内容を記録し、振り返る（30分程度）
7 発達段階を踏まえた手作り玩具の制作⑦		<学習内容> 子どもの遊びを通じた考察 <事前学習> 材料や題材の事前研究を行う。（30分程度） <事後学習> 授業内容を記録し、振り返る（30分程度）

8	大型絵本/紙芝居の制作①		<学習内容>制作方法の基本的理解 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。(30分程度) <事後学習>授業内容を記録し、振り返る(30分程度)
9	大型絵本/紙芝居の制作②		<学習内容>子どもの興味を考え、シナリオ作成 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。(30分程度) <事後学習>授業内容を記録し、振り返る(30分程度)
10	大型絵本/紙芝居の制作③		<学習内容>絵割り <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。(30分程度) <事後学習>授業内容を記録し、振り返る(30分程度)
11	大型絵本/紙芝居の制作④		<学習内容>ミニチュア制作 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。(30分程度) <事後学習>授業内容を記録し、振り返る(30分程度)
12	大型絵本/紙芝居の制作⑤		<学習内容>本制作・台詞 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。(30分程度) <事後学習>授業内容を記録し、振り返る(30分程度)
13	大型絵本/紙芝居の制作⑥		<学習内容>本制作・演出ノート <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。(30分程度) <事後学習>授業内容を記録し、振り返る(30分程度)
14	大型絵本/紙芝居の制作⑦		<学習内容>本制作・演出ノート <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。(30分程度) <事後学習>授業内容を記録し、振り返る(30分程度)
15	大型絵本/紙芝居の制作⑧		<学習内容>実践を踏まえての協議・改善 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。(30分程度) <事後学習>授業内容を記録し、振り返る(30分程度)

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
ピアヘルピングの基礎		畠中 智恵		2	後期	講義	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE2403		
		担当教員	畠中 智恵					
幼 保	科 目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保 系 列								
<b>【キーワード】</b>		<b>【概要】</b>						
1	ピアヘルピング	仲間同士がお互いを援助し合うピアヘルピングの知識や心構えを身につけ、ピアヘルピングを実践するための力を習得する。それにあたり、カウンセリングの基礎（歴史、理論、技法）について学び、さらにカウンセリングスキルを習得する。						
2	カウンセリングの知識							
3	カウンセリングスキル							
4	青年期							
5	パーソナリティ							
<b>【到達目標】</b>		1. カウンセリングの基礎的な理論や技法を理解できる。 2. ピアヘルピングに関する基礎的な知識・スキルを理解できる。 3. ピアヘルピングを実践することができる。						
<b>【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】</b>								関連性
<b>【知識・理解・技能】</b>								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
<b>【思考・判断・表現】</b>								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
<b>【関心・意欲・態度】</b>								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
<b>【成績評価の方法】</b>								
成績指標	定期試験	受講への取組み（出席）	小テスト	合計				
評価割合（%）	40	40	20	100				
<b>【成績評価の基準】</b>								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準	
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。	
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。	
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。	
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 レポート提出後、レポート内容の講評及び解説を行う。		
【教科書】 『ピアヘルパー ハンドブック』日本教育カウンセラー協会編 図書文化社		
【参考書・参考資料等】 授業時にプリントを配布。また、参考文献等は授業時に紹介する。		
【関連科目】		
【受講心得】 ・授業にはまじめに取り組むこと。 ・受講にあたっては事前事後の学習を行い、グループ演習やロールプレイには積極的に取り組むこと。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション カウンセリングの歴史とピアヘルパーの意義		<学習内容>授業の進め方の説明と、ピアヘルパーの概要について説明する。 <事前学習>事前に教科書の第1章・1を読んでおく。(30分) <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。(1時間)
2 ピアヘルピングのプロセスとパーソナリティ		<学習内容>ピアヘルピングの基礎となるカウンセリングの歴史等について説明する。 <事前学習>事前に教科書の第1章・2を読んでおく。(1時間) <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。(1時間)
3 小テスト ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル①		<学習内容>カウンセリングの具体的な技法について説明、実践する。 <事前学習>事前に教科書の第2章・1～3を読んでおく。(1時間) <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。(1時間)
4 ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル②		<学習内容>カウンセリングの具体的な技法について説明、実践する。 <事前学習>事前に教科書の第2章・4～7を読んでおく。(1時間) <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。(1時間)
5 ケーススタディ		<学習内容>これまで学んできたカウンセリングのスキルを用いて、ピアヘルピングを実践してみる。 <事前学習>事前に教科書の第2章と授業内で配布したプリントを読み返しておく。(1時間) <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。(1時間)

6	青年期の課題とピアヘルパーの留意点 ～学業・進路・友人領域～	<p>&lt;学習内容&gt;青年期の課題とピアヘルピングの活用について説明する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;事前に教科書の第3章・1、2、3、4を読んでおく。(1時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。(1時間)</p>
7	青年期の課題とピアヘルパーの留意点 ～グループ・関係修復・心理領域～	<p>&lt;学習内容&gt;青年期の課題とピアヘルピングの活用について説明する。</p> <p>&lt;事前学習&gt;事前に教科書の第3章・5、6、7を読んでおく。(1時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。(1時間)</p>
8	まとめ	<p>&lt;学習内容&gt;これまで授業で扱ってきた内容を振り返る。また試験に向けての対策も行う。</p> <p>&lt;事前学習&gt;授業内で配布した資料を読み返す。(1時間)</p> <p>&lt;事後学習&gt;教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認する。(1時間)</p>
9	定期試験	資格試験前の対策として定期試験を行う